

勉なる人は、恰も怠惰者に利用せらるる御人良しの如きものである。

人類活動の動機は、常に又何處に於ても利己心である。共產主義にありては、利己心は常に犠牲に供せられるから、これを實行するときは人類をして怠惰と貪食とに赴かしめる。

慾望を充たすことは権利の範圍内であるから、最も注意深き人間は最も多く食ひ最も少く働くであらう。

宗教的共產主義の社會が存続し増加するとすれば、最も深く根ざせる自然的感情、獨立心、自愛心、家族に對する愛情をその人の心より芟除せんとするものに外ならない。この奇蹟を遂行せんとするは、天國の幸福を期するものである。利己心は生命と共にするにあらざれば、これを殺すこと能はざるものであるから、死亡して居るものではない。唯、その目的が天國に移されたのである。

誰か産業的社會が修道院の型とその主義の上に建設せらるるものであると信するものがあらうか？

社會主義者<sup>(1)</sup>ブルウドン曰く、「共產主義は、労働を嫌忌し、人生を倦怠ならしめ、思想を抑壓し、自我を殺害し、虚無を確立するものである」と。(Systeme des contradictions économiques, tome II, chap. XII)

註(1) Proudon は一八三九年 Proudhon に生れ一八六五年死す。氏の著書は行文が熱烈、筆手な所から大なる反響を興へた。

讀者に感動を興ふる所大なりしも經濟上の智識が乏しかつたため説明せらるる所が曖昧であつた。

### 第二節 虚無主義

ロシアの革命家バクレーニン出で次の如く言つた。「幸福を確保するを以て其使命とせる總ての諸制度、即ち、國家、王權、宗教、軍隊、所有權、家族あるがため、労働者は掠奪せられ、踏潰せられ、不幸裡に餘義なくせられる。現在の社會に於ては、石上石を置くが如き抑壓を蒙ることなきに至らざる場合に於てのみ、人類は幸福にして自由となる。總てのものを絶滅せなければならぬ。虚無はその目的とする所である。虚無主義は永遠の幸福を齎すであらう」と。

それで宜しい、然らば如何なる新しき組織を採らんとするのであるか？

バクレーニンは「自分も探求する所を止めるから、汝も又求むる所を止めよ」と答へる。ユーロピア主義者は、その最良と信する組織を強ゆるものであるから全く暴君である。自分は無形換言すれば總ての社會制度の絶滅を力説する。解放せられたる人性に適する社會組織は自ら人民中より發せらるるであらう。

キリスト教の初期に於ける厭世家と一千年至福説を奉ずる輩は、社會を以て救済し難き害惡に委せられたるものと信じ世界的大洪水によつて一新し再生せしむべきを期した。火を以て世

界を燒燬せば、新天地が顯れる。公正は勝を制し幸福が行はるるであらう。

ルソーは、悪徳と不公平との救済し難きに失望し、人類を原始時代の叢林に復せしめんとした。これは、同じ感情より出でたるもので、精神を狂亂せしめる程度まで極端に行はるるときは虚無主義を生ずる。

以上の學說についてこれを打破する必要があるであらうか？。虚無を批判し論駁すべき價值があるであらうか？。

#### 第四節 無政府主義

現今の社會主義者の中には、無政府主義、換言すれば、政權の否定を意味し、總ての政治組織に反對する説を唱道する者が多い。

若し、これ等の社會主義者が、出来るだけ國家の權限を縮少することをのみ欲するなれば、その説く所は無干渉主義を奉ずる經濟學者の唱ふ所に一致する。

若し、實際に論者の目的とする所が國家を廢止するにありとせば、それは總ての權利及び權力は存在せずして、恰も野獸の間に見るが如く、暴力が勝を制し、強者が弱者を併呑する有史以前の野蠻時代に復せしめんと欲するものであると言はねばならぬ。

#### 第五節 集合主義と労働の組織

現時の社會主義者は、共產主義を排し集合主義を賞揚する。

共產主義と同じく集合主義は、生産的資源、労働用具、即ち土地、鑛山、鐵道、各種の工場  
の所有權を社會に歸屬せしめる。併し、生産物の分配に至つては、その仕遂げられた仕事に比  
例して報酬を與へ、責任觀念と利己心に對する刺戟とを抑壓しないのである。

生産資源の所有者は國家なるか、市町村なるか、労働組合なるか？ この組織につきては定  
むる所不明なるを以て論及することは困難である。

ルイ・ブランは彼の名著労働の組織に於て、ベルギーの鐵道につきて見る如く、總て産業は國  
家によりて行はるべきものなることを主唱した。かくの如きは今日尙唱道せらるる集合主義に  
近きものである。

その結果、總ての人間は國家の官公吏となり、社會全體は一の軍隊の如きものとなる。

今日では、働かざる労働者は解雇せられる。併し、總ての産業が國家の手によりて行はるる  
ならば、解雇は最早可能でない。そこで、解雇は營倉又は牢獄によりて代へられねばならぬ。  
然らば、生産的活動の動機をなすものは、個人の創意ではなく受働的の從順と壓迫とである。

實に各企業主が、多くの利益を得んがため廉價なる物を製造し、これを多量に賣らんと努むるにより、産業の進歩は完成せらるるのである。併し、各人が給料を受くに止るものとすれば誰れが製造方法の改良につき利害を有するであらうか？

進歩の終止と普遍的專制とが、總ての經濟生活の行動を支配するとせば、人類の運命はどうなるであらうか？

### 第六節 生産組合

生産組合にありては、労働者は資本と労働とを同時に供給し、二要素は同一の手に集められるからして、資本家と労働者間の反目は自ら終止するのである。かくの如くにして、社會的闘争の解決を見出し得るものと信せられた。

不幸にも、産業的企業の管理は困難なる仕事である。労働者が、企業の管理をなすことは不能であるから、管理者及び高等なる使用人と同一の報酬を受くることは、公平の原則に反するものと思はれる。生産組合は常に管理者の無能或は不誠實のため蹉跌するのである。

無名會社にして労働者が其の株主たるものは、生産組合と同一の利益を有し、恐らくは、これ以上の成功を收め得るであらう。

經濟界も、政治界と同じく主權の必要なることを忘れてはならない。工場にありても、船舶又は國家に於けると等しく命令を發する首領とこれを奉ずる服従者とがなければならぬ。然らざれば、無政府状態となり秩序紊亂して絶滅に終るのである。

現今に至るまで、労働者がその指揮者を選ぶは恰も國民軍が其の首領を選ぶと等しくその服事する理由につきてはよく了解して居ないのである。

### 第七節 移民

移民が、産業を攪亂することなくして急激に人口の大部分を奪ひたる場合には賃銀の騰貴を來す。即ち一八四七年の饑饉後アイルランドの住民八百萬人中より三百萬人を奪ひたる大移民の如きこれである。

徐々に移民すること、例へば、ドイツが毎年十萬或ひは二十萬人を國外に移民するが如きは賃銀に毫も影響を與へない。出生が其の空隙を充たし、労働の供給は減少しないから、賃銀は増加しないのである。

### 第八節 同業組合と職工組合

昔時にありては、同一職業に従事する者は閉鎖的同業組合を組織し、長き徒弟年期と嚴格なる試験とを経た後でなければ、これに加入することを許されなかつた。

されば、錠前製造の同業組合に所屬しない者は錠前を製することは出來ない。ある種の製作をなすことは排他的の特權である。餓死することは自由であつたが、思ひのままにパンを得ることは自由でなかつた。

ツルゴーは、一七七六年法令を發して曰く、勞働權は總ての人の所有に屬し、その最たるもので總てのものの中にありて絶對的のものであると。

今日では同業組合は消滅した。併し、自由なる職工は各々が孤立するときには、微弱となることを知り再び職業によつて結合するに至つた。併し乍ら、何等の排他的特權をも有しないのである。

これ等の職業組合は、イギリス及びアメリカに於て多數の會員を擁するものが著しく多く、世人はこれをツレード・ユニオンと呼んで居る。毎週醜金の方法により救済基金を組織し、賃銀増加の目的の下に討議をなし、共同行爲に出でんがため、時々集合を催すのである。その武器

とする所は同盟脅迫と同盟罷工とである。

### 第九節 同盟脅迫及び同盟罷工

勞働者は、往々雇主に對し賃限の増額を得んがためこれを強請するに當りて勞働を拒絶するに努むることがある。換言すれば、勞働者の要求の容れられないときには同盟罷工を始めんとするのである。

同盟罷工はイギリスに於て屢々行はれた。——十年間（一八七〇——一八九〇年）に二千三百五十二回の多きに達した。——その譯は職工組合（ツレードユニオン）を組織し、勞働者は毎週醜金して一朝事あれば、同盟罷工者を救助するために用ゐらるる基金を作つたからである。

一工場内に同盟罷工の發生するときは他の工場に於ける勞働者は勞働を繼續し依つて勞働せざる罷工者に對し賃銀を支拂ふのである。結局雇主は降服を餘義なくせらるる。

雇主は、かくの如き重圍に陥り憫憐を乞ふ孤立的地位に陥ることを避くるため、同盟罷工に酬ゆるに同盟工場閉鎖（lockout）を以てする。換言すれば、作業を全く停止することによりて戦闘を持續するに要する資源を断ち、速に勞働者をして降服せざるの餘義なきに至らしめるのである。

同盟罷工は、殊に、勞働者にとりては大なる苦痛である。イギリスの統計學者ブーバンの計

算する所によれば、百十二回の同盟罷工は賃銀數百萬磅の損失に相當すと。ある地方に於ては同盟罷工は往々地方の産業を絶滅せしめることがある。

同盟罷工は經濟上の法則が許す場合、換言すれば、利潤の大なる場合にあらざれば賃銀を増加せしめることは出来ない。併し、同盟罷工は大陸に於て起ることは稀である。唯産業家が窮地に陥り、自滅せざれば高き工賃を支拂ふ能はず、從て、被雇者の境遇を窮迫せしむ場合に於てのみこれを見るのである。

同盟罷工を避くるため、現今イギリスに於ては二つの方法が採られてゐる。

一、仲裁裁判、雇主と職工とがその紛糾を解決するため、同意の下に選定したる適當なる仲裁人を選定し、これに爭議の理由を述べるのである。

二、賃銀は生産物の賣價に従ひて定められる。例へば、若し鐵の價格が高低するならば、これを生産する労働者の賃銀も其の割合に應じて増減する。

### 第十節 資本の増加と所有權の普及

重農學派の經濟學者は曰く、労働者の境遇を改善する唯一の法は資本を増加するにある。労働者の數増加せずして資本増加するときは、其の結果賃銀を騰貴せしむるであらうと。

其の説く所正確なれ共、未だ盡くさざる點がある。資本の増加には一の限度がある。而してこの限度に達することはあり得べきである。労働に對する報酬が未だ充分に與へられて居ないのにその限界に達せる事實が既に見へかけて居る。

増加せられたる資本の大部分を、良法と節約により労働者の手中に移すべきことは重要な點である。

世人は、必要な物すら所有せざる赤貧者に對し、節約を説くのは慘酷なる罵言であると言ふであらう。

必要な物を持たないことは事實であらう。併し、不吉なる贅澤物と見らるべき飲酒喫煙に費す金銭はこれを有つて居るのである。

若し労働者が、自己を愚鈍ならしめる飲酒に充當する巨額の金銭を貯蓄するとせば、二十年間にして自己が働ける工場を買ひ受くことを得るであらう。故に先見、眞面目、節制の諸徳を實踐するならば救濟せらるることを得るのである。

### 第十一節 賃銀の騰貴と人口の増加との關係

人口の増加が、資本の増加殊に食糧の増加よりも著しく速なるときは、生産物の最も公平な

る分配をなすとしても、各人の得る所は不充分なる報酬たるに過ぎないから如何なる改革を以てするも、赤貧者階級の運命を決定的に改善することは出来ない。

されば、スチュアルト・ミルが、經濟學に於て人口問題は他の總ての問題を解決するものであると云ひしは寔に正當なりと云はねばならぬ。

## 第七章 人口の増加を論ず

人口の増加は恐るべきものなるか？

この問題に關しては、久しき以來二つの相反せる説がある。

ギリシアの諸都市にありては、其の場所狹隘なりしたため、哲學者政治家及び立法者は市民の増加を以て害惡なりとし假令吾人をして戰慄せしむる方法を採らしむるも、これを救治せなければならぬものであると思考した。

ローマでは、人口が稀薄であつたため大家族を賞揚し獨身者を處罰した。

十七世紀より十八世紀に亘つては殆んど諸國の專制政府は農村の人口を稀少ならしめたからして、あらゆる方策により人口の増殖を獎勵したのであつた。モンテスキューは、人口の増殖

は常に幸福なりと云つた。ルソーは國家にとり人口の缺乏ほど大なる害惡はないと云つた。

ケネーは、これに反し、人口よりも食糧の増加が最も緊要であると云つたが、多くの經濟學者は、氏と同様の意見を持つて居る。これ等の經濟學者は生殖力強きに過ぐる結婚は養はざるべからざる口數を増加するものであるから懸念すべきことなりとし、政治家と外征を好む君主は兵員を増加し得るの理由によりこれを喜んだ。

(1) マルサス、其名は吾々が人口問題を論ずるに當り常に引き離すことの出來ぬ人であるが、次の如き學説を重要な二卷の書物に説明して居る。人口は食糧よりも速に増加する傾向を有する。人口は幾何級數的の乘數により増加する。例へば次に示す數字の如く、

一、二、四、八、一六、三二、六四、

食糧はこれに反し算術級數的加算により増加する。例へば次に示す數字の如く、

一、二、三、四、五、六、七、

養ふべき口數とこれに必要な食物の量との間に存する均衡は忽ちにして失はれる。以上の如き進行の二法則が實際上遵守せられないのは、他の抑制的障礙が人口の増加を阻止するがためである。併し、これ等の障礙は人類を呻吟せしむる天災、即ち、疾病、饑饉、戰爭殊に災厄なることは明である。これを避くる唯一の方法は、道德的節制により人口の過度の増殖を阻止するにある。

註 (1) Thomas-Robert Malthus は一七六六年 Rookery に生れ一八四一年歿す。氏が名聲を博した著作人口論は一七九八年に公にせられた。人口問題を深く研究したのはこれが嚆矢である。外に經濟學原論 (一八三〇) と經濟學釋義 (一八三六) とを出版した。

スチユアルト・ミルはマルサスの數學的方式を排斥し自家の説を次の如き命題に表したが、それは論駁すべからざる所である。

嫌惡すべき支配を受けないときには、人類は増加する傾向を有する。實に人口は、國によりて期間には相異あれども倍加するもので、北アメリカ合衆國及びジニアバに於ては約三十年にして、フランスに於ては百二十五年乃至百五十年間に倍加する。

他方耕作地のヘクタール數(一クタルは日本の一町二十五歩に當る)は、各國につきて見ても全世界より見るも制限せられ、各ヘクタールが生産し得る食糧の量は、一定の限度内にあらざれば増加するを得ない。

限りなき人類の増加と、限りある食糧の増加との間には早晚均衡を失すべきは必然である。均衡を失うがため饑饉を生ずる時期の遠き將來に屬することは疑を容れない。併し、饑饉の來るに先だち限りある土地より要求せらるる農産物の需要は増加せらるるからして、その結果農産物の騰貴と多大の生活難とは、一時的のものである農業技術の改良によりて減少せらるることはない。

多數の學者は以上の暗識たる豫言を採らない。此にその駁論を掲げやう。

一、ケーリー曰く、總て物は高等有機體の組織を取るよりも下等有機體を形成する方が容易である。されば、雜草類及び草根類の方が常に牛羊よりも其量多く、牛羊は人類よりも其量が多い。

この説は謬つて居る。現今に於ても人口稠密なる國にありては、其生産する所の牛肉を以てしては各人が衛生上必要とする丈の牛肉を供給せられない。

二、人口稠密なるときは人類は多くの資本を使用し得るを以て労働の生産力を増加する。

これは眞理である。併し、此に論ずる所は工業的生産物の問題ではなく、單に食物の問題である。假令、百細の羅紗ありとするも、一人の小兒をも養ひ得ないのである。

三、ビエル・ルルー(一七九七—一八七一年)は曰く、ライビツヒ(ドイツの化學者一八〇三—一八七三年)の説に従ひ、吾人が土地より借り來りたるものを總て土地に還すならば、環流、換言すれば人類が常に其の身體を保持する物を汲みとり得る生命の環を創造するであらうと。

其意見は結構である。無機物より抽出せらるる豊饒なる元素を、土地が吾人に與へる所よりもより多くを土地に還へし得る。併し、土地に對し多量の肥料を加へ過ぎるときは、麥は稠枯して腐敗するに至るのである。ここに於てか、食物に限りがあることとなる。

四、人口稠密に過ぐる國の住民は、これを世界に於て未だ住居せられず而も豊饒なる場所に移住せしむることを得る。我が地球は百二十億の人口を容るに足るも、未だ十五億に達して居らないと計算せられる。加之、貿易は益々自由に活潑に行はるゝからして、新開國の生産物を舊國に對し絶へず多量に輸入し得るのである。

以上は總て眞理である。併し、これがため既にスチュアルト・ミルにより指示せられたる如く人口が絶へず増加するときは、最も改良せられたる農業技術と雖も、充分なる食糧品を生産し得ざることの眞理を動かすことは出来來ない。フランドル(白國)に於ては、既に百ヘクタータールに付き二百八十人の多きに達し、印度の一部ヲウドに於ても、殆んどこれと等しき人口の稠密の度を有してゐる。

然らば如何なる結果となるべきであらうか？。人口過多となり食物缺乏しこれがため互に相食むの狀を以て進行するとせば、一定時の後には太右に見たるが如き人肉嗜食に終るであらうか？。否然らず、眞の進歩に於て救済の道を發見し得るであらう。眞の進歩はこれを三つの言葉に表すことが出来る、即ち光明、德行、公正である。

光明愈々大なれば、精神的な生活は吾々の間に見る獸的生活に打ち克つてであらう。德行は節制と先見とを導くであらう。

公正は各人に對しその勞働の成果を享有することを確保し、所有權を普及せしめ、人口の極

端なる増加に對して試用せらるべき解毒劑たるであらう。

## 第八章 利 潤

### 第一節 利潤の觀念と理由

利潤は、企業主の勞力に對する報酬である。

この報酬は、不確定、變動的にして射倖的なるものである。その譯は、企業主は地代、賃銀及び利子に對し一定額を支拂ひ、生産物の販賣が齎す結果を豫知する能はざるが故である。

企業主は年度末に至りその企業に要したる所を總て計算し、これを企業が齎したる總額より控除する。其差額が利潤である。

されば、利潤とは企業が作りたる生産物より得たる價格から、生産物を作るがために要したる各種の費用を控除したる餘剰である。

利潤には二要素がある。第一は企業主の熟練と熱心とに對する報酬である。

智識と準備とを要すること大にして心目を惹くこと少き企業は、利潤を得ることが多い。各



種の企業につきて見るに、利潤は企業主の資質に従ひ著しく異なる。一は失敗し他は豊富となる。所謂企業の成功は、主として企業主の性格に繋るのである。

第二の要素は危険である。農夫は耕地に播種する。併し、どの位の收穫を望み得るであらうか？。恐くは、雹霰のため絶滅せらるゝかも知れない。危険の恐あるものは、利潤を増加する保険料の支拂によりこれを保護せねばならぬ。企業が射倖的なものはその利潤も大なる譯である。

各種の企業に於て利潤は平均せんとする傾向を有する。何となれば、企業主は新なる資本を用意し異常なる利潤を生ずる企業に従事せんとするからである。併し、この平均は企業及び商業の活動が絶へず利潤率を變化せしむるものであるから決して正確に働くものではない。

### 第二節 利潤率と賃銀率とは反比例をなすものなりや

リカルド及び其の派の學者は、生産せられたる富を以て確定的數量を有するものなりと思つて、利潤は賃銀を減するにあらざれば、これを増加すること能はざるものなりとの推論を下した。

企業主が著しく賃銀を減少し得るならば、其出費減せられ利潤を増加し得ることは確實であ

る。併し、競争者は忽ちにして同一の利益を得るに至り、生産費減少し賣價下落し、利潤も亦低下せらるゝであらう。

利潤は事業の報酬であるから、利潤も亦賃銀と同時に高低するものであるとするのが寧ろ眞理である。多大の利潤を得る者は、労働者に對し高き賃銀の支拂をなし得べく又これをなすべきである。

北アメリカ合衆國に於ては利潤、賃銀共に高い。西部ヨーロッパにありては二つ乍ら著しく低い。

### 第三節 利潤は低下する傾向あり

労働生産的にして、それが創造する生産物多大なれば、企業主労働者共に多くの報酬を受け得る。

富の資源多く而もこれが開拓少き新興國にありては、企業主労働者共に多大の利益を得る。既に全く開拓せられ盡したる舊國にありては、労働は専ら衣食を得るに固執せなければならぬ。富を得んがためには、熟練と例外的の僥倖に待たなければならぬ。

されば、才幹と資本とを用ゐんと努むるものの數に比し、これを用ゐる範圍制限せらるゝの

度に従ひ、貸銀は低下せられんとする傾向を有する。

利潤の低下は、多大の利益を挙げしめ或は費用を少からしめ得る労働方法の完成によりて、これを停止することが出来る。

例へば、鐵道は多數の人々に對し富裕となり得る機會を與へた。

企業主労働者に多くの利益を齎したものは科學なることを了解し得る。

## 第九章 資本に對する報酬

### 第一節 利子とは何ぞや

生産に對する協力の第三要素たる資本も、亦その報酬を受けなければならぬ。資本が受くる報酬を利子と名づける。

借主の消費する代替資本及び流動資本に對しては、利子は通常年何歩の割合によりて計算せられる。例へば、百法に對して年五法と云ふが如きである。借主がもとの儘に返還せざるべからざる固定資本につきては、報酬はその物のなしたる效用と減損の割合による。

資本の享有に對して支拂ふ利子にありては、二要素を區別し得る。第一は貸付資本の危険を保護すべき保険料にして、第二は單純なる資本の借料である。

惡法及び偏頗なる裁判行はるゝ國にありては、資本を貸す者はこれを回收し得ざる危険を冒すのである。そこで、貸主は保険料として、平均して高率の利子を約して危険を保護する。

東洋諸國に於ては、利子が常に極めて高く一割五歩乃至二割以上に達するのはこの理由によるのである。

利率を減少せんとせば、良法を制定し公明正大なる司法官を任命せねばならぬ。

資本を貸した者はこれを奪はれ、資本を借りた者はこれを享有して利潤を得るのであるから、資本を借りた者が、これを貸した者に對し賠償をなし享有に對する借料を支拂ふのは當然のことである。

貸主の數が借主の數に比較して少きときには借料の率は高く、貸主が多數で借主が少數なる場合には借料の率が低い。これは需要供給の一般的法則である。

併し、多數の貸主が投資を求むるときはどうか？。節約をなすに充分なる富を有し、又經濟的蓄積を志す人著しく多きこと、恰も十七世紀の和蘭に於けるが如きにありては、利子は三步より二歩に低落した。各人は働き、商業を営み、何人もその所得を全部費消しなかつた。デカルトは驚嘆措く能はずして、業に勉めざる者一人もなかりきと云つた。

如何なる場合に借主多きか？。企業心發達し、これと同時に自然が産業に對し豊富にして報酬多き用法を供するときには借主が多い。

北アメリカ合衆國に於ては、企業勃興し、處女地の開拓、宅地の買収、建築、礦山、工場、鐵道等は一割二割三割と大なる利潤を擧げたからして、企業主は年利六歩乃至八歩を支拂ふ資本を借つて居つたけれども、資本は缺乏を告げなかつた。巨萬の富は立所に作られた。數年ならずして五千億法以上の富を作つた者の例を多く引くことが出来る。

## 第二節 利子は低下する傾向あり

人口稠密にして多年富裕なる國、例へば、イギリスの如きにありては、利率は二つの理由により減少する傾向を有する。即ち一方に於ては資本は絶へず節約せられ競争的に割引せられ、他方に於ては資本使用の範圍、換言すれば、價値を増加し得る富源の減少せらるゝに由る。

富國に於ける利率低下の傾向を阻止し得るものは外國に投資するか、富源を新に開發するか、或は設備に多額の出費を要するも、利益大なる鐵道の如き産業の進歩をはかることにある。ヨーロッパに於ては一八五〇年より一八七〇年に至る間利率は高騰した。其譯は全世界に於て陸上電線、海底電線、鐵道、交通及び灌漑用の運河、新工場、銀行、瓦斯會社 各種の有利なる

企業が巧に資本を利用し、總て資本を形成せるものに對し多大の報酬を支拂ふたからである。

總て有用なる大事業既に遂行せられ、至る所に於て産業がその生産方法を完成するに及びては、新資本は最早や儲多き使用法を見出し得ない時期に到達するであらう。これスチュアルト・ミルの靜止的狀態と稱へしものにして彼曰く、「人は常に金錢の追求にのみ醒促たるべきではなく人類の幸福なる状態を見なければならぬ」と。氏の言ふ所は正當である。最高の運命たる價値を有する眞の生活は、必ず一日の半を割きて、生産的勞働に充つる條件の下に、哲學藝術及び公務に没頭せし、ソクラテス時代のアテネ市民の生活であつた。

利子の低落が極度に達するとき如何、節約に對する報酬少きときは、生産せられたる富を直に消費するに至るであらう。百法を節約して僅に五十サンチムの利息を生ずるに過ぎないとすれば、節約する者の數は著しく減少するであらう。

將來を憂慮すること大なるに於ては、貨幣を毫も利子を生ぜざる匣中に死蔵するに至ることを忘れてはならない。

資本に對する報酬が最早や新なる資本を創設することを勸むるに足らざる時とならば、人類は總て生産に必要な器具を自己の意のままに處理し、これをよく保存する條件の下に毎年勞働が生産し得るものを總て直に費消に充當するであらう。

かくの如き時期の到來するは尙遠き將來である。

### 第二節 利子の正當なること及び高利禁止法

古代に於ける道德的感情によれば、アリストートル、教父、寺院法は最も嚴酷なる語辭を以て、總ての利子を盜賊或は殺人犯人として咎めた。カトン曰く、祖先の法律は盜賊に對しては二倍の返還を以て處罰し、高利貸に對しては四倍の賠償をなすべきことを以て處罰した。尙傳ふる所によれば利子をとりに貸したる者と殺人とは孰れが重きかにつき議論があつたと言はれてゐる。

以上の如き刑罰の課せられたのは、第一は資本の性質に關する誤謬と、次には、利子付貸借の弊害を見たとに由るのである。

資本の性質に對する謬見を述べよう。古人は資本を以て實を結ぶことなき貨幣のみに限ると信じた。アリストートル曰く、利子とは貨幣より貨幣を生ずるものである。而してこれを得ることは最も自然に反すると。(第一卷第七章) 同一の思想は、ローマに於てもこれを見出し得る。通貨は通貨を生ずるものにあらずと。實に二十法の貨幣は一年の終りにその借料を支拂ふための一法をも生ずるものでない。この問題につきては、ボシユエの高利に關する論文を讀むことが出来る。

古人は物の外見によりて欺かれた。貨幣が毫も生産しないのは事實である。けれども、貨幣は食糧、器具、機械約言すれば、資本を得る手段である。而してこれが恩惠により労働は凡て生産し得るものであるから、重要な生産的のものなりと言はねばならぬ。ペンサムがアリストートルに對して云ひし如く、古代波斯の純金貨一個は他の純金貨を生ずることを得ない。けれども、それを以て私は羔を與へて呉れる所の牝羊の羊を買ひ求めることが出来る。この羔より羊群が生ずるのである。

太古に於て利子付貸借が生じたる弊害は利子付貸借を憎惡すべきものならしめた。その譯は利子付貸借をなす者は、多くは生計を支ふるためになす不遇者であつて、借入金を利用する者でなかつたからである。負債の利子は資本を食ひ盡した。借主は忽ちにして窮境に陥り、債權者の思ひの儘になつた。これローマに於ける平氏の歴史である。

ローマの十二銅表を見ると、人民は債權者を避くるため都市より逃走し山中に隠遁したことが解る。この問題に關する所を次に述べて見よう。

- 一、自認する金錢債務を支拂ふか、又は法律上の處罰を受くるには、債務者は三十日の法定猶豫期間を有する。
- 二、其の期間を経過するときには、債務者は逮捕せられ裁判官の面前に引致せられる。
- 三、債務者が其の債務を辨濟するか、何人かが債務の保證をなすにあらざれば、債權者は債

務者を自家に連れ歸り、革帶又は少くとも十五磅の重量ある又は其好む所に従ひ、それ以上の重さある鐵鎖を以て足部を束縛することを得る。

四、第三日目の市日の後に債權者は債務者の五體を細片的に分割する。その分前が多少大であつても債權者は責任を免れる。

イスラエルにありては、利子付貸借は破滅又苛責であると考察せられた所から、其の同胞の間には禁止せられた。併し、外國人に對しては許された。

總ての利子を咎めた寺院法及び高僧の思想はこの問題につき、ギリシヤ、ローマ及び舊約全書を支配した觀念と一致した。

分拆して觀察するときは、利子は公正に合すると同時に必要なものであることを證明し得る。

公正に合する理由を説明せんに、資本を創設したる者、例へば鋤につきて見るに、この新しき勞働用具を製する間、身を養ふべき食糧を閑暇のために費消せずして鋤の製作に犠牲となしたるものであるから報酬を得べきは至當である。

●若し、其の鋤を貸すとすれば、これを借りたる者は多大の生産をなし得るであらう。借主が完成せられたる器具の使用に負ふ所の生産の増加部分を全部收むるとすれば、それは公正と云ひ得るであらうか？

貸主と借主とは相棒の關係にあるものであるから、其の得たる利益は兩者が分配するを以て公正に合する。

利子は、讓渡せられたる事物の享有が日々生産する效用と等値のものである。

利子は必然的のものである。若し利子を禁止し又は廢止するとせば、何人も死藏するにあらざれば節約するものはなかるべく、總ての節約は往時に於ける如く匣中に藏匿せらるゝであらう。利益のないのに誰が資本を失ふ危険を冒すものがあらうか？

●新に創設せらるゝ資本少く、又資本を貸す者がないとすれば、どんな狀況になるであらうか？

高利禁止法は往昔各國に於て過重な利子を禁止した。即ち、五、六歩の利子を禁じたのである。この法律は今日では殆んどどこでも廢止せられた。これは實に結構なことである。この種の法律は無用にして、保護せんとせらるる人にとりても却つて害がある。

貸主をして、借主に頻繁に書替をなさしめ手數料を約せしめよつて法網を避けしむるからして無用である。この種の法律は、貸借の危険を増加するものであるから害がある。故にこの種の法律は其の結果必然的に利率を上騰せしめる。

#### 第四節 通貨の多少が利率に及ぼす影響

企業主が望む所は通貨の借用につきてではなく、食糧、原料、器具、機械等總て労働によりて用ゐらるゝ有用なる總ての生産物につきての借用である。

併し、生産の用具を所有することを得しむるものは、通貨又は通貨に基礎を置く信用證券によるのであつて、貸借が行はるゝのも通貨の形を有する物によるのである。

通貨は、物を甲の手より乙の手に移轉せしむる循環作用をなす。

その結果、通貨少きときは資本を生産的ならしむる方法少く、従て、これを得ること愈々困難にして高率の利子を支拂はねばならぬこととなる。

貨物を運搬する船舶に不足するときは、運送賃は高くなる。これと同じく貨幣としての媒介物少きときは、利子は高くなる。

信用證券を使用し貨物の所有を甲より乙に移すことを知るに至り、金屬貨幣の缺乏が利率に及ぼす影響は少くなつた。

又貨幣の缺乏久しければ物價は低下する。かくして、各通貨の媒介物は多量の貨物の所有を移轉し現存の貨幣を以て用をなすに足る。而して、普通利息騰貴の原因をなす貨幣の缺乏は消

失せらるゝ。

### 第二部 富の循環

富の創造に協力する各要素、即ち、土地の所有者、労働者及び資本家は各自己に歸する分前を得る。消費せんとする物を得んがためには各人は普通協力する。受くるがために與ふるのである。即ち、富は甲の手より乙の手に移される。富は交換によつて循環する。

## 第一章 交換

### 第一節 物々交換

交換の最も簡單なる形式は、貨物と貨物とを交換する物々交換である。有史以前の時代において、物々交換のみ行はれ、尙今日に於ても野蠻人の間には、一片の豚肉を得んがために一

個の斧を、バナナの一房を得がため一本の釘を與へる。

併し、交換複雑となると同時に職業の分化を生ずるに至れば交換が完全に行はるゝためには貨幣の助けによらねばならぬ。而して、物々交換は二つの作用即ち賣買によりて行はれる。

イリアード(ヘーマーの叙詩)によれば、レモスの商船がギリシヤに葡萄酒を齎せば武人はこれと交換するために青銅、鐵、毛皮、牛、其他奴隸までをも提供することを急いだ。これが原始的最初の物々交換である。

## 第二節 貨幣の用法賣買

先づ、アリストートルが、次には、ローマの法學者ポールスが、貨幣の濫觴とその效用とを完全に説明した。

此にギリシアの哲學者が如何に説明せしかを述べて見よう。

必要が貨幣を生せしめたのである。交換に當り、それ自體有用なる物質にして、人生日常の取扱上輕便なるものを受授するを以て便利なりとした。これは、例へば、鐵、銀或は此の種の物質であつて、先づその容積と重量とを定め、終には常にこれを測定する面倒を避くるために特殊の刻印を施しその價值を記入した。併し、貨幣はそれ自體に於ては無價值のものに過ぎな

つた。唯法律によりてのみ價值を有するものであつて、性質上然るものではなかつた。何となれば、貨幣を造る者の間の約束の變更によりて全く貨幣の價值を減少し、毫も吾人の慾望を満足せしむるに全然適せざるものたらしむることを得るからである。(ポリチック第一卷第六章)

法學者ポールスも同一の思想を有する説を唱へたが、それは更に正確なるものであつた。

「賣買の起源は物々交換に見出される。貨幣が世に知られなかつたため、貨幣と價格とを區別すべき何等の言葉もなかつた。併し、各人は時と境遇の必要に従ひ、自己に無用なる物と自己に必要な物との物々交換をした。何となれば、甲に對しては過多なる物にして乙に對しては缺乏せることが屢々あつたからである。併し、正確に甲の所有する所の物を乙が希望し、これと反對に乙が提供する物を甲が受けることを欲することは、常に見られ得る譯ではなく、又これあることが容易でないから、秤量均一にして合法的に永久の價值を有する物質を選び數量を均等ならしめ、よつて物々交換の困難を除いた。この物質には官印を刻し、其の質によらずして量によりて支拂の慣用と能力とを與へた。

爾來交換せらるゝ二物は貨物と唱へられないで、一方のみが貨物で、他方は價格と呼ぶべきものである。

イシトール・ド・セビユ(十六章十七節)は古代の學說を次の語辭に要約した。「貨幣には重要なる三要件がある。即ち、物質、法律、形狀これである。これ等の中一つを缺ぐときは最早貨

幣でない」と。

賣買の常になす所は、結局貨物を、貨物又は勤勞と交換するにある。私が食物、衣服、又は醫師、辯護士、裁判官、教師の勤勞を欲するとせよ。これが交換をなすに當り、私は自ら生産し得たる貨物、或は私がなし得る勤勞を提供するのである。交換により兩者の慾望は満足せらるる。

要するに、貨幣又は貨幣の轉置により完成せらるる富の循環は、ローマ法が次に定義せし如く物々交換の連續に終るのである。

- 一、甲は乙の贈與に對して與へる。例へば、葡萄酒を得て小麦を與ふるが如し。
- 二、甲は乙の勤勞に對して與へる。甲の子供の教育に對して乙に金錢を與ふるが如し。
- 三、甲は乙が甲に贈與するに對して勤勞をなす。例へば、甲は乙のために勞働する、併し、乙は甲を養はねばならぬ。
- 四、甲は乙の勤勞に對し勞務をとる。例へば、甲が乙のために訴訟をなす、併し、乙は甲のために裁縫をせねばならぬ。

### 第三節 交換が福利を増加する方法

交換は大に富の増加をなす上に與りて力がある。第一に間接に富の増加をなす。何となれば交換は職業の専門と分業とをなすことを得せしめるからで、これが有する驚くべき効果は既に説明した如くである。第二は直接に富を増加する。其の譯は、交換は貨物を最もよく利用し得る人の手に移し、物の効用を増加するからである。

農夫が耕作に使用するには輕捷に過ぐる馬を有し、田舎の醫者が往診をなすには速力の遅い馬を有するとせば、兩者は交換をする。すると、農夫は畦を容易に耕作し得べく、醫者は迅速に駆けることが出来る。各人は便利を得て、その利益は多大である。富は増加せられる。

原始時代にありては、各家族は總てその消費する所の大部分を生産した。今日では、交換は絶へず行はれる。即ち、職業と職業と、都會と田舎と、州と州と、國と國と、大陸と大陸との間に行はれる。最も貧乏な勞働者と雖も新舊兩大陸の生産物を消費して居る。

衣服を製造する羊毛はオーストラリアより、食用米は印度より、パン製造に用ゆる小麦はイギリスノイヌ洲より、ランプ用の石油はペンシルバニアより、コーヒーはジャバより、妻女の衣服を製するに用ゐらるる綿は埃及又はアラバマ州より、及物はセルフィールドより、鏡はドイツより、ネクタイの絹布はフランスより、亞麻布はフランデルより移入せらるるのである。

交通の方法と富の循環の機關とが改良せらるるに従ひ交易の數は増加する。

故に、經濟的文化の進歩は、交換の發達によりて測定せらるべきものであると言ひ得る。



## 第二章 賣 買

### 第一節 價 格

價格とは廣義に於ては交換によりて得らるる貨物を云ふ。通常の意味では、交換が得る通貨の量である。

物の價格は物を賣らんと欲する人と、これを買はんと欲する人との間に行はるる競争、換言すれば、世人の所謂需要供給の法則によりて決定せらるる。

貨物の供給とは賣らんと欲する貨物の總量であつて、需要とは代金の支拂能力ある人の買はんと欲する貨物の總量である。供給が需要に超過するときは價格は低下する。需要が供給に超過するときは價格は騰貴する。

市場に表るる家畜夥多にして、これが買手少ければ、家畜の價格は下落する。家畜少くこれが買手多ければ、家畜の價格は騰貴する。

### 第二節 需要供給及び生産費

物の需要は、慾望、又は、結局同じことに歸するのであるが、慾望を満足せしめ得る物體の有する効用により決定せらるる。供給は、需要せらるる物の豊富なるか或は稀少なるかに起因する。物が稀少なりとは、これが生産困難なるか生産費を要することが大なるかによるもので例へばクロノメートル（節度計）の如きがこれで、又天然に存在すること少きによるものの例としては、ダイヤモンドの如きがある。

小麦の需要著しく強烈なるは、これを以て最も必要な慾望を充たし得るがためである。併しそれが高價ならざるは小麦の供給は常に豊富なるが故で、その豊富なるは小麦の生産には多くの費用を要せざるに由るのである。

併し、市街が敵の重圍に陥りたる場合に於けるが如く、小麦が缺乏するときは、これを得んがためには、總ての所有物をも與ふるであらう。又小麦の收穫多からざる時は著しく其の價格を高騰せしむる。

以上は任意に増加し得る物の供給は生産費によることを示してゐる。

出費又は生産額を回収するために要するものを、必要價格或は自然價格と呼ぶ。

ここに其の理由を説明せう。市價が必要價格以下に低落するときは、生産者は損失を蒙るを以て生産を中絶する。すると、物は稀少となり其の結果市價は生産費を回収する程度まで上騰する。

市價が生産費以上に昇るときは、貨物製造により異常の利益を得るから利益は資本を引誘し、生産は増加せられ、ために其の市價は低下せらるる。

市價は時には必要價格より高く時にはこれより低い。併し常に必要價格に接近せんとする傾向を有する。

數量を任意に増加することを得ない物にありては、獨占價格が生ずる。そこで、獨占價格は單り需要によりて定まる。ルーパンの繪畫の價格如何この種の繪畫は如何なる代價を支拂ふとも何人も盡き能はざる所であるから、其の價格は好事者が互に競争して熱中の付したる代價である。

増加し得る貨物なりと雖もこれを多量に生産するに従ひ出費を要すること益々大なるものもありては、必要費はその貨物の最も高價なる部分に該當するに至るであらう。これ等の出費が賣價により回収せられなければ、その貨物の生産を中止するであらう。

甲の炭坑に於ける石炭の生産費を一噸に付き四法とし、乙の炭坑に於ける石炭の生産費を一噸に付き七法と假定せば、必要價格何程なるべきか？。必要價格は少くとも七法を下らないで

あらう。何となれば、甲の炭坑のみの生産を以てしては需要を満足する能はざるにより、天恵の少き乙の炭坑より生産せらるる石炭を需要せざるべからざるに至つたのであるから、最も高き石炭の生産費を償却するに足るまで賣價が上がるのは必然のことである。

多大の出費を以てすればこれを多量に生産し得る、小麦、その他の貨物につきても同様である。

されば、既に説明したるが如く、最も天恵多き土地の生産物は然らざる土地の生産物に比し生産費を要すること少くして、尙同一の價格を有するを以て例外的の利益を生じ、地代發生の原因をなすのである。

### 第三節 正 價

太古及び中世にありては、正價、換言すれば、物の價値に相應する價格につきて論議せられた。

交換の公平なる基調をなすものは、交換物の間に見る價格の均等と云ふことにあらねばならぬ。私が二百法の價格を有する牝牛一頭を百法にて賣るとすれば、私は損失を蒙りこれを得たる者は私の損失に於て富むこととなる。損失が價格の半を超過するときは、ローマ法に於ては賣

買の解除をなし得べきものとし、フランス法も同一の原則を採つた。

ブラトールは、小麦を積載せる船舶入港すれば小麦の価格の下落すべきを憂ひ、船舶の到來を隠蔽し小麦を其の價格以上に賣り付けんとする者を處罰すべしと論じ、聖オーガスチンは廉價に買ひ高價に賣らんことにのみ没頭する者を批難した。(Do Trinité 第八章第三節)

近代の經濟學者は正價の觀念を認めない。その説く所によれば、當事者間に承認せらるる價格は常に公正であるとせらるる。

其の理由とする所は、當事者は契約法に基きてなしたるものであるからと言ふにある。併し實際に契約が法律に合致するものでなければならぬ。

後の原則は正直なる商人によりて採用せらるる實踐的誠實の格言より流れ出て居る。即ち、常に各人に對し貨幣に相應する物を與へねばならぬ。決して貨物の品質を欺いてはならぬ。

#### 第四節 取引所の效用

價格は供給と需要との間に生ずる關係の結果であるから、最良の價格を決定する方法としては、總ての供給者と需要者とをして交通せしむるにある。

この交通の用をなすものは市場と取引所である。

私の收穫した小麦一袋の價格何程なるか私には分らぬ。されば、孤立して賣買をなすときは討論の結末がつかない。併し、同一の場所に於て小麦を賣らんと欲する人とこれを買はんと欲する人とが相集合するとすれば、相互競争の結果忽ちにして相場定り、大取引も暫時の間に何等の困難なくして完成せらるるであらう。

されば、取引所と市場とは、需要供給の法則を最もよく適用せしむる目的と結果とを有する制度である。

### 第三章 貨 幣

#### 第一節 貨幣の性質と其の作用

貨幣は、慣習又は法律が支拂の方法、交換の用具、價值の共通尺度として用ゐしむる物體である。

法律學者ポールスは、貨物と貨物とを物々交換することの困難なりしことが、交換に際し貨物を買ひ代金の支拂をなす方法として、仲介物の力によるに至らしめたことを説示した。

貨幣は、循環の能因にして交換の媒介物である。貨幣は、甲の所有を乙に移すこと恰も車がある場所より他の場所に一物を移すと同じである。

アメリカの經濟學者ダナ・ホルトン（貨幣と法律十四頁）が説明せしが如く、野蠻社會の初めより法律又は慣習が貢税、罰金、贖罪金、課金を定め、これが納付をなすには如何なる物體を以てすべきかを定めた。されば、貨幣は支拂上合法なる用具である。

貨幣はこれと同時に普遍的等値のものである。私が貨物を二十法で賣るとすれば、私の受くる二十法は私の手放す貨物と等値である。私の得たる二十法を以て、私は同價値を有する有用なる貨物を取得する。アダム・スミス曰く、金貨一個は商品の一定量に對しては、附近の供給者の間に於て支拂ひに用ゐらるる手形であるとして考察することが出来る。

貨幣は、亦價値の共通尺度或はその原基である。直接に貨物の相對的價値を比較するのは困難である。小麦幾何程が羊肉幾何程の價を有するか？ 比較の評價は共通の評價者たる貨幣を用ゐることによりて容易となる。物の長さを比較するには容積の原基たるメートルにより、物の重さを量るには重量の原基たるキログラムによると同じである。貨物の比較價値を度るに用ゆる唯一の物體は、それ自體普遍的等値の貨物であつて、その價値は他の總ての財貨の價値と同じく變動する。

それ故、價値の尺度には、長さや重さなどに於けるが如く確固たる原基が無い。

價値の尺度に於ても、出來得る丈け確固たるものを採用すべきは望しきことである。

貨幣にして、其の價値甚しく持久的で極めて一般的に承認せらるるものは、富の蓄積をなし、一國より他國に、一時代より他の時代に、富を移轉する上に便益が多い。されば、貨幣は時と所に論なく、富の保存と移轉とをなす用具である。分業並に職業と職能との相互的關聯が定まるのは貨幣の恩恵である。故に貨幣は人類社會の連鎖である。

## 第二節 各種の貨幣

貨幣として各種の物體が用ゐられた。即ち、シベリアに於ては毛皮が、アフリカに於ては立法體の食鹽、藍色の綿票及び貝殻が、スパルタに於ては鐵が使用せられた。又昔は殆んど何處に於ても家畜が貨幣として用ゐられた。

リグベグ（印度の古典）、ゼンドアベスタ（波斯の古典）、ホーメルによれば、貨物は牛の頭數によりて評價せられた。デラメードの甲冑は牛九頭の價を有し、グローコス（グロース）の冑は、牛百頭の價であつた。（イリアード六章二三四）イリアード第二十三章に歌へる所によれば、闘士に賞品として與へられた三脚臺は牛十二頭と評價せられ、勞働に熟練せる奴隸一人は牛四頭（グラツドストーン *inventus mundi* 五三四頁）と評價せられた。勝利者なるフランク種族がサクソン

種族に課した租税は牛の頭数によつて計算せられた。我國語ペキユニエール (Pecuniaire) は Pecus (家畜) より來て居る。Pecule (1) petit trésor なる言著についても同様である。英語の ba (サクソンの feoh) は報酬を意味し、スカンデナヴィア語の ba と同一である。希臘語の Nympa は所有及び家畜を意味し、ゴシツク語 skattar は寶庫と同時に家畜を意味し、獨語の schatz は寶庫で、フリーズ (和蘭と獨逸に跨る西歐の一部) 語の schape も家畜を意味する。ヘブライ語の Kassaph は羊及び貨幣を、sannal は駱駝と報酬を、Milkah は語源 kama 創造、家畜、獲得、買價を意味する。サンスクリット語の rupya (ルービー印度の貨幣) は rupa (家畜) に由來する。

註 (1) Petit trésor 註解者 Featus 曰くこれ等の使用語が、betali から抽出せられたことは奇とするに足らない。古代に於ては富と財産とを形成せしものは主として家畜であつた。されば、今も尚 pecunia pecunium と言ふのである。

金屬貨幣は、初め家畜の貨幣を代表するものとして用ゐられた。何となれば、エシユイルの悲劇 (ギリシアの昔話) ムノンの中に表るるが如く、貨幣には牛の形態が刻られてあつたのを見ても解る。ローマの青銅貨を見ても同様である。

交換は文明の進歩するに従ひ頻繁に行はるるに至つた所から、貨幣は單り金銀によりて鑄造せらるることとなつた。金銀の二金屬が時を同ふして一般的に用ゐらるるに至りし所以は、これ等が他の物質に比し良貨を作る上に混和せざるべからざる特質を有するに由るのである。そ

の特質を述べれば次の如し。

- 一、金銀は毀損せられずして完全に保存せられる。昔希臘人、羅馬人の蒐集したる黄金は貨幣に鑄造せられ、或は鎔解せられて新なる貨幣に作られ其一部分は今尚我々の間に流通してゐる。
- 二、金銀の産出は其鑛山の少きため制限せられる。貴金屬は其の重量に比し大なる價值を有す。所からその取扱運送蓄藏が容易である。
- 三、金銀は年々産出せらるるからしてその額は増加せられるけれども、不慮の災害、磨損のため減少せられる。金銀の總額は貨幣に用ゐらるるものと裝飾品に使用せらるるものとを合して約五百億法であるが、人口の増殖と世界の交易の總額が増加するとの結果殆んどそれと同一の割合を以て貨幣の需要は徐々に増大せられる。かくの如く供給と需要とは殆んど均衡する所から金銀の價值は著しく確固たるものがある。
- 四、金銀の總重は既に莫大なるを以て、年々の産出額の變動が生ずる所の價值の變動を緩和すること、恰も大湖の水準がこれに注ぐ河川の排出量の變化によつて、殆んど其影響を被らないのと同じである。
- 五、金銀は萬人がこれを欲求し受領するものであつて、このことが一般の交換用具として役立つ物體に必要缺ぐべからざる特質である。金銀は總ての文明國に於て受領せられる。されば、貴金屬は一般に支拂の用具として役立ち得る。

六、金銀はこれが分割容易にして其の各部分は重量に比例して其の價值を有する。  
七、金銀はその出所、公稱價格並に純金銀の重量を認識することを得しむる極印によつて、これを受領し完全に保存することを得る。

八、金銀はこれを容易に認識することが出来る、金は其の重量により、銀は其音響によりて認識が容易である。

價格の變動は總ての契約に影響するものであるから、以上述ぶる貨幣の特質中價格の變動少きことが最も重要な點である。

### 第三節 貨幣の價值

貨幣の價值は、その貨幣が得る貨物の量、換言すれば、購買力によりて度られる。

中世にありては、小麥一ヘクトリットルを買ふには今日の五法に相當する純銀を包含するものを以てした。今日では、同量の銀を以てしては、四分の一の小麥を買ひ得るに過ぎない。銀はアメリカ發見以前に比較するときは、最早四分の一の價格を有するに過ぎない。

金銀の年々の産出總額が著しく増加したるがため、金銀の用途極めて増加したるに拘らず、その價值は減少したのである。

一五〇〇年に於て歐洲に存在した金銀の總量は二十億法にして、年々の産出額は約二千五百萬法なりと計算せられる。全世界に於ける實際の總量は、五百億乃至六百億法にして、年々の産出額は約九億法となる譯である。

貨幣の價值は、他の貨物の價值と同じく供給と需要との割合によつて定まる。

供給は流通する貨幣の數量と流通の速度との結果である。同一の交換量を實現するため、各法をして一個毎に一日三回購買の用をなさしむるとせば、各法を一日一回限り所持者を變へしむるときに比べ總體の法を三分の一に減少するを有利とする。同一總量の貨幣の供給と有用なる作用はかくの如くにして三倍せらるるであらう。

貨幣の需要は通貨によりて行はるる交換の量から生ずる。

貨幣の供給が需要より多きときは、貨幣の價值は低下し物價は騰貴する。

貨幣の需要、換言すれば、通貨による支拂を要する交換量が流通貨幣の總量よりも多きときは、貨幣の價值は騰貴し物價は下落する。

貨幣の數量と交換の數量とが相並んで増加するに當り、同時に通貨の助けによらずして取引を決了するときは、貨幣の使用は減少せられその供給は増加し物價は騰貴する。

金銀製裝飾物は貨幣供給の方面より見て物價に影響を與へない。併し、貨幣需要の點より見て物價に影響を與へる。何となれば、金銀の裝飾物を買するにも正貨を必要とするからであ

る。

金銀が地金の形態を有するときは、地金が貨幣の作用を代替する證券類によつて代表せらるる場合でなければ、物價に影響を及ぼさない。

金銀の生産費は、それが金銀の數量を變じ從て供給を變動する力を有する範圍内にあらざれば金銀の價値に影響を及ぼさない。

#### 第四節 貨幣の豊富なることは利益なりや

孤立せる人類又は國にとりては、夥多に貨幣を有することは毫もその利益とせられない。

多くの貨幣を以てなし得る交換と同じ交換を、僅少の貨幣を以てなすことが出来る。何となれば、物價は正貨の數量の減少するに比例して低下せられ、又貨幣單位は貨物の量多きに比例して變化し、その單位は少くなり大なる價値を有するに至るからである。

人類が今日よりも二倍多くの貨幣を所有したりと假定して見よう。人類は有用物をも亦現實の享樂物をも多量に所有する譯ではないから、人類がより多く富裕になつたのではない。各人の境遇は従前の儘である。總ての貨物は同一であるのに、單り物價が二倍となつたのである。即ち、一法を支拂ひしものに對し二法を支拂ひ、總ての財貨は二倍高き金錢に評價せられ、何

人にとりても少しの利益もないのである。

併し、貨幣の價値の變動は、その變動が終了するまで法律上並に經濟上の關係に大なる混雜を齎す。何となれば、債務及び契約は總て物價に基きてなされたものであるのに、物價が變動するからである。

茲に農夫があつて、國家に對しては二十法の租税を納むべく、抵當債權者に對しては二十法の利子を支拂ふべきものとせよ。若し、小麥一ヘクトリツトルの價を二十法とすれば、農夫は二ヘクトリツトルの小麥を以て以上の債務を免除せられる。然るに貨幣の價値半減しその結果物價も亦半減すれば、農夫はその債務を辨濟するため小麥四ヘクトリツトルを渡さなければならぬ。

貨幣の絶對的又は相對的減少は物價を低落せしめ、交換の進行と生産の活動とを一時阻止するの結果を生ぜしめ、それがため債務者を終局的に潰倒するに至るのである。

貨幣の増加は、物價を騰貴せしめ、其の結果交換及び生産を刺戟し、債務者の負擔を緩和する。

これ、リユーボン・ホワイト氏をして、コロンボスのアメリカ發見は、舊債の免除をなさしめたるものなりと言はしめ、又ルロア・ポーリユー氏をして、フランスは一八四八年後に金産出の異常なる増加をなし得ざりしならば、破産せしなるべしと言はしめたる所以である。(財政學二

卷三二三頁。

貨幣は出來得るだけ確固なる價值を有し、通貨によりて行はるる交換の増加すると同じ割合を以て、その數量を増加し得べきものなることが望ましいのである。

### 第五節 貨幣制度

原始時代にありては、今尙多くの國、例へば支那に於て見るが如く、金銀を交換の用具として用ゐるに當つてこれを秤量したのであつた。ローマに於ては、初めアス(ās)が重量及び貨幣の單位とせられた。我貨幣制度はシャルマン大帝の制度に由來したもので、銀一磅を以て貨幣の單位としたのである。

國家は、その使用の便を計り金銀の錠を鑄造し、其の重量、含有の純分、名目、從て法定價格、換言すれば、支拂に於ける法定通用力を明記した。

一定の金額を支拂ふに當り、最早金屬を試験しこれを秤量する必要なく、個々の數を計算すれば足りるのである。そこから計算に用ゐられる *numeraire* 通貨なる語辭が出てゐる。

金銀貨幣を硬固ならしめ、因つてこれが磨損を少からしめるため、純分に對し銅の若干量を加へる。これが雜分である。純分と雜分との間に存する割合は貨幣の品位である。フランスの

重要貨幣の品位は十分の九の純分を含む。即ち十分の一の雜分を含むものと言ひ得る。貨幣が法定の品位を有するときには良貨なりと言はれる。

貨幣の單位は、金貨又は銀貨である。其の他の貨幣はその倍數又は約數である。

フランスに於ては法、イギリスに於ては磅、ドイツに於ては馬克、オランダに於てはフロリン、北アメリカ合衆國に於ては弗が單位貨幣である。

貨幣の中で、總ての支拂に制限なく、法定の強制通用力を有するものがある。これ本位貨幣である。

他の品質劣等なる貨幣は、小額の支拂に對してのみ法定の強制通用力を有する。これは補助貨幣又は足し前である。

僅少の支拂に對しては *billon* (青白銅貨) が發行せられる。これは通常青銅又はニッケルを以て造られる。

貨幣に關する法規の全體が貨幣法を組織する。

往昔、主權者、帝王、都市、司教、大名は貨幣鑄造權を保有した。その譯は金屬が包含する價值に優る名價を有する貨幣を發行し、兩者の差額、即ち、貨幣鑄造税と稱するものを自己の利益に歸し、歲入の源泉となしたからである。

主權者は貨幣に包含する純分の量を減少し、或は貨幣に大なる法定價格を付し、よつて屢々



貨幣鑄造權を濫用した。若し、一磅の銀貨に雜分を加へ一磅の銀貨二個を鑄造し、或は一磅銀貨一兩後二磅の銀貨として受授せらるべきものとせば、總ての支拂力は半減せらるるであらう。會て國家が倒産したるは此の方法をとりしによる。

フランス王、フイリッヅ・ベルは其負債を減少せんがため、これを常用手段としたので惡貨鑄造者と綽名せられた。ダンテも、亦(失樂園歌謠詩第十九章一一八の一二〇)地獄の中に曰く、「世人も知れる如く貨幣を賤造し、セイヌ河岸の住民を苦惱せしめたるものなれば、賤造者は豚に蹴られて死すべし」と。

ブルタークの傳ふる所によれば、ソロンは債務者の負擔を軽減するため、一ミナ(希臘の貨幣)を以て七十三ドラクマに換ゆる法律を廢し、將來は百ドラクマに相當するものなりとの命令を發した。尙ブルタークは、實質に於てはその價值少しとするも外見上は一樣なる價值を付する所から莫大なる總額となり、毫も債權者を害することなくして債務者を利する所が大であつたと説明した。ブルタークが茲にかくの如き膠見を發表したのは、減損せる貨幣と價值少き紙幣の發行を是認せしがためである。昔時の貨幣に比べて價值の減少せられたものを以て、よく總ての支拂をなし得る所から、何人も失ふ所なきが如く思はれる。物價は、貨幣の單位がその價值を失ふに従ひて騰貴する。

フランスに於て、主權者が相繼ぎて貨幣の眞價の減少を命令した結果は、貨幣の單位の價值

が低下せしことを容易に測ることが出来る。シャルマーニユ大帝の鑄造せし一リールは銀一磅の重量を有し約六十六法の價值があつた。十八世紀の末葉に於ては、一リールは九十九センチムの價值を有するに過ぎなかつた。

貨幣の額と物價の問題を歴史に徴し了解せんと欲するならば、第一にその時代に於て金銀の幾何量が貨幣の額を代表したるかを、第二に貨物幾何量を以て一定の金屬貨幣を得べかりしかを知らなければならぬ。

それによると、ソロン時代の希臘に於ては、一ドラクムは約九十二センチムの價值を有し小麦一メデム即ち五十二リツトルの物價に相當して居つた。

羅馬では、バビニア法が罰金を納むるに家畜を用ひし舊法を廢し、金額を以てすることとし羊一頭を十アスとなし、牛一頭を百アスと定めた。一アスは銅、錫及び鉛の合金より成り、我が五十六センチムに相當し、羊一頭の價格は五法六十センチムにして、牛一頭の價格は五六法である。

現今文明諸國に於ては、本位貨幣の鑄造は自由である。各人は、造幣局に無制限に貨幣製造に用ゐらるる金屬を持參し、これと引き換へに貨幣に鑄造せられたる同量の純分を受領する權利を有し、單に鑄造費又は手數料を控除せらるるに止まる。併し、イギリスでは鑄造費すら控除せられない。個人が貨幣を鑄造するは自由である、けれども、法定の割合に従はなければなら

ない。この割合によれば、フランス並にラチン同盟に於ては金一グラムは十分の九の純分を有し三〇〇法に換ふべく、銀一グラムも亦同量の純分を有し二〇〇法に換へられる。現今では銀の自由鑄造は廢止せられた。イギリスに於ては純分十二分の十一の金に對し金貨三磅十一志一、〇五リニエが與へられる。

國家は、二つの理由からして補助貨幣の鑄造權を留保しなければならぬ。第一は補助貨の眞價は其の名價に劣ることと、第二は補助貨は法定強制通用力に制限があつて、その數量を制限せなければならぬからである。

金銀貨幣の自由鑄造は、イギリスに於ては一六六六年以來行はれ、フランスに於ては革命第十一年(一八〇三年)の芽月(七月)の法律により始められた。

現今諸國に行はるる貨幣制度は、一八六五年に各國がラチン貨幣同盟(フランス、イタリア、スイス、ベルギー)を組織したるに始り、其の要は、金貨及び五法の銀貨を本位貨幣として許したのであつた。他の銀貨は劣等の品位を有するものとして、千分の八百三十五の純分を含むものと定めた。これ等は法定の強制通用力を有せず、各支拂に於て五十法を限度として認められ、同盟國は住民一人につき六法の範圍に於てのみ發行することを許される。

billon (青白銅貨)はフランス、イタリアでは青銅を以て、スイス、ベルギーではニツケルを以て造られる。これ等は些額の支拂にのみ用ゐられ、五法を限度として受領せらるるに止る。

ラチン同盟に於て最も嘉すべきことは、補助貨幣及び青白銅貨は、その所有者がこれを國立銀行に差出すときは、法定の額に至るまでは本位貨幣と交換せられ得る約款の存する點にある。小貨幣がその需要に超過するときは、本位貨幣と交換せられ得るから、小貨幣の量が多きに過ぐることはない譯である。

### 第六節 單本位制と複本位制

ラチン同盟の貨幣制度は、複本位制度又はビメタリックと呼ばれる。その譯は、要するに、この制度によるときは、金銀貨幣につきては其量を制限せずして自由に鑄造することを許し、特殊の強制通用力、換言すれば、總ての債務は法律による強制通用力を有する貨幣により支拂はるべきものと見做さるる所から、總ての支拂に受領せらるる權利が付與せらるるからである。貨幣制度には、金貨のみに無限の法定強制通用と自由鑄造を認むるもの、例へば、イギリスに於けるが如きがあり、銀貨に限りこれを認むるもの、例へば、オーストラリアに於けるが如きがある。

單本位制度は最も簡單なるもので各個の貨幣は同一の金屬を以て鑄造せらるるものであるから、其の間に存する價値の割合は一定して居る。併し、貨幣と貨幣により交換せらるる財貨と

の間に存する價值の割合は、複本位制度の場合よりも、單本位制度の場合に於ける方が交換の際に多くの變化を生ずる。

貨幣とこれを以て交換せらるる財貨との間に存する價值の割合は、複本位に於けるよりも單本位の場合に於て變動が大である。實に複本位制度は、恰も、時計の振子が膨脹率の異なる二金屬より成るところから、寒暖による變化少きと、或は二つの流れを受くる河川の排水量が一樣なると同一である。貨幣制度にありても、金銀二個の流入によりて同時に維持せらるるものは、貨幣の總量著しく多く、二金屬中の一の産出が減少せらるる場合には、他の産出の増加により相補ふことを得るから確固たる性質を有する譯である。

### 第七節 グレシアムの法則とニュートンの法則

複本位制度の大なる不便は、所謂グレシアムの法則より生ずるものである。トーマス・グレシアムは、イギリスの女王エリザベスの一顧問官であつたが、一五五八年に價值少き貨幣は常に價值高き貨幣を驅逐し、これを國外に輸出せしむることを指示した。アリストファースも、亦同一の思想をアテネ人につきて其著蛙の中に記し、我が共和國に於ても、惡市民が良市民よりも用ゐらるること多きは、恰も惡貨が流通し良貨が姿を匿すが如しと云つた。

ニュートンは、一七一七年グレシアムの法則の憂ふべき結果を免除する方法を指示し、諸國を通じて金銀價值の割合を同一に定むべきことを以てした。かくの如くなすに於ては、金銀の中一を選びて他國に輸出する動機はなきに至るであらう」と。この經濟法則は、大星學者により發見せられたる重力の法則と同じく、文明諸國の貨幣同盟の基礎をなし、聯合國家の關係と連帶とを密接ならしむる上に與つて力があつた。このことは、セルニユスシ氏（イタリアの政治家にして經濟學者一八二一—一八九六）が徹底的に明にした所である。

銀は近代に至るまで常に重要貨幣として用ゐられた。フランス語の銀 (argent) は貨幣 (monnaie) と同一の意義を有する。

實に銀はその價值が不變的であるから、最良の金屬貨幣であり、價值の不變的なることは、合法的支拂方法と價值の共通尺度とが具備せざるべからざる重要な性質である。

銀は單り銀山の採掘によりてのみ得らるるものであるから、銀の價值は金に比し不變的である。金の産出は其の四分の三は砂金より採取せらるるもので、歴史の示すが如く、暫時にして増減する。若し金が唯一の本位貨幣として至る所採用せらるるとすれば、物價は屢々急激なる變動を受くるであらう。而してこれは一大弊害である。

## 第八節 貨幣制度の維持

貨幣制度を完全に維持せんとせば、次の如き立法的手段を必要とする。

- 一、悪貨を鑄造し、發行し、法貨を模造し、或は錢縁を切り取ることを禁じ、これを處罰すること。
  - 二、最輕量目を定め其れ以下の貨幣に對しては法定の強制通用力を失はしめ、これが支拂を拒絶せしむることを得せしむること。
  - 三、最輕量目以下の貨幣につきては、その流通を奪ひ最終の所持人の負擔、或は國家の費用により改鑄せしめること。
- 貨幣は公衆の用に供せられるもので、最終の所持人によりてのみ使用せらるるものでないから、國家の費用により改鑄せらるるを以て最も公正なるものとする。

## 第四章 信用

### 第一節 信用とは何ぞや

信用は信託行爲である。貨幣又は貨物を所有する者は、信託行爲により、その貨幣が償還せられ或は貨物の代金が支拂はるる契約の下に、その所有物を他人に交付するのである。

信用はラテン語の *Credere* (信用する) より出て居る。實際、若し、甲が一定の時間後に於てその借金額或は約束の代金が償還せらるることを條件として乙に對し通貨或は財貨を交付するとせば、それは甲は乙が契約を履行すべしと信するからである。

この約束を信じ債務の支拂につき權利を有する者を債權者といふ。これが契約を爲し支拂の義務を有する者を債務者といふ。支拂はるべきものは前者にとりては債權で、後者にとりては債務である。負債の始まりたる日より支拂の時に至るまでを期間といふ。

されば、約束と信任とは信用の要素である。信任の緣由をなすものは、辯濟力、才智、剛毅、及び正直である。

これ等の特質の發達を計り、契約が嚴格に履行せらるることを保障する法制は、信用の普及と増加とを生せしめる結果を有する。

道德と良法とが、富の生産を惠むこと如何に大なるかは、これを了解することを得るであらう。

債權が文書によりて確定せらるる場合には、各種の信用證券を生せしめる。即ち、兌換券、約束手形、爲替手形、小切手、賣渡證書、市債、社債、國債等これである。

對人信用とは、その根據を個人的性格、債務者の公知又は假想的資産に置くものにして、對物信用とは、負債者の擔保物にその基礎を置くものである。對物信用は對人信用よりも確實である。羅馬法に曰く「物は人よりも安全なり」と、これ名言である。

## 第二節 信用の利益と效果

信用は勞働の生産力を進め富を増加する。併し、信用はそれ自體によりて富を増加するものではない。信用は資本の活動力を増加する。けれども資本の量を増加するものではない。

總ての信用は、實に一の約束又は支拂の命令、換言すれば一の署名である。一筆の花押によりては資本を創造することを得ない。

信用は當然支拂ふべき物の外に權利を與ふる約束を生ずるものであるから、資本を増加するが如き觀がある。けれども、實際二物は存在しないのである。一方は他方の陰影に過ぎない。

試に、信用證券を全部燒燬しても、毫も實物の存在に影響を與へない。法律關係が單に變更せらるるのみである。債權者の失ふ所を債務者が正確に取得するのである。

家屋が水に投影するときは二つの家屋があると云ひ得よう。若し水面が波立てば影は消へる。併し、實際ありし物は存在を續けるのである。

百法の債權を買ふとすれば、その得る所は將來の百法の所有權とそれに屬する利子とである。富と富の所有を表す證券とは二物ではない。

信用の有用なる効果は次の如し。

一、信用は生産に必要な資本を勞働の用に供するものである。

筋肉強壯なる人が肥沃の土地を所有するとしても、その土地を耕作するに要する器具と、收穫の時まで生命を維持すべき食糧とに缺乏するならば、其人は餓死し土地は不生産的の儘に残されるであらう。私がその人に器具と食糧を貸與するならば、其の人は働いて一年の終りには前貸した總額を私に償還して呉れるであらう。その人はそれから勞働の果實によつて生活することが出来る。信用が勞働を助け富の増加を利することはこれによつて解る。

二、信用は貯蓄を利用し資本の休止を妨げる。

近東諸國では、貯蓄をして居る者もこれを失はんことを慮れて、敢て他人に貸さない。貯蓄者はこれを寶石に換へ或は煙管、短劍、馬具等の裝飾とする。最も注意深き者は國庫の誅求を免れんがため地中に埋藏する。節約が創造したる富は、毫も生産の用をなさない。信用は存在しないのである。

スコットランドでは、地主、農夫、製造家、工匠は節約したる所を總て銀行に預金し、銀行は直ちに生産者に貸付ける。されば、資本は少しも休止しない。正直と労働愛にその基礎を以てくときは、信用は盛に行はれ完成せらるること驚嘆すべきものがある。

三、信用は最もよく資本を利用し得る人の手にこれを移す。

新資本の大部分は、産業に與ることなく資本を有利に使用し得ざる人々によつて創造せられるのである。所得を生せしめる方法は、資本を直接又は銀行業者の仲介により、最も高き貸付料を拂ひ得る人に貸し付けるにある。何人が最も高き貸付料を與ふるか？。それは資本を最も生産的に使用する人である。

信用は、資本を最も有利なる場所と人の手に絶へず移轉せしめる。

信用は、節約に對し直接にして出來得る丈け高き報酬を確保するから、その結果節約を奨励することとなる。

四、信用は大事業を直ちに遂行せしむることを得べく、或は戦時の如き非常時に於ては、將

來に期待せらるる収入或は生産物を當てにして、その要求に臨むことが出来る。併し、以上の場合に於てさへも、信用は何物をも創造しないのである。信用は單に前から存在して居る資本を處分せしめたに過ぎない。論者の主張するが如き、將來の物の前取、或は擔保せられたる資本の請戻なるものはないのである。それは比喻から出て居るのである。現實に存在するものでなければ利用することを得ない。經濟學に於ても、他に於けると等しく、ボール・ルイクターエの云ひし如く、深き意味の言葉を記憶せねばならぬ。「比喻と惡人とはこれを豫防せねばならぬ」と。

五、信用は支拂の經濟的方法を創設する。

信用は金屬貨幣の少量を以て交換をなすことを得せしめる。金銀はこれを自由に工業用に供するか、或は消費又は生産に必要な有用貨物と交換して海外に輸出することを得るに至る。アダム・スミスの述べし如く、「信用は生産物を交換するがため、空中に道路を開きて普通の道路たる貨幣はこれを耕地となるべき新なる食糧品を生産せしむるものである」と。

併し、この利益は幾分實際よりも誇張せられたる觀がある。何となれば、一國或は世界全體につきて考察するに金銀の外に交換の用具たる手形類を金屬貨幣の上に加ふるときは、物價を騰貴せしめるからである。

他方に於て交換甚だ容易に行はるれば、商工業を盛ならしめ、其の結果商工業は交換の用具

を多量に必要とするに至ることは明である。そこで貨幣も下落せず物價も騰貴しないのである。ここに如何にして信用が貨幣の役目をなすかを述べて見よう。

辨濟能力ある人が一千法の支拂を約すると假定する。この約束は全く信用に出でたるものであるが、これは貨幣一千法と等しい支拂に受領せられて、多くの人々の手を轉々し、同額の正貨がなすと等しき取引上の作用をする。かくの如くにして、正貨流通の外に信用證券が流通する。信用證券には左の如き利益がある。

- 一、金に比し混雜が少い。
- 二、巨額の金額をも速に計算することが出来る。
- 三、貨幣の如く磨損のため重量を減することがないから費用を節約する。
- 四、遠方に送ることが容易である。
- 五、信用證券の掠奪者に對しては、これが支拂を受くること能はざるやうに證券を作成することが出来る。

總ての信用證券は、正貨の額を以て支拂はるべき權利を有するものであるから、金屬貨幣にその基礎を置くのである。併し、それが流通する間は貨幣の役目をなすのである。

### 第三節 信用の弊害

母はその子に云つた。現金でなくては何一つ買はれぬ、信用は禍の本であると。

父は云つた。信用は産業の生命である。信用を排するは破滅の本であると。

兩者の云ふ所には各、道理がある。母は不生産的の消費を奨むる信用につきて云つて居る。

これは有害である。

父は生産を奨める信用につき云つて居る。これは有益である。

不幸にも大負債者たる國家は、父の言へる所をとらずして、母の言ひし所に依つて居る。國家は戦争及び戦争の準備のため資本を不生産的に貪食する。

信用は現に人の有するもののみならず、將來有すべき希望をも買收せしむるものであるから、危険なる投機心と西工業の過度の興奮を助長する。

### 第四節 信用證券

信用證券は、總て債務者に對する債權者の權利を確認する證書である。

一、借用證書、甲が乙に對し金一千法の債務のあることを認め、これを支拂ふ契約をなすが如し。

二、一覽後持參人拂の手形、甲はその手形の呈示者に對し即時金一千法を支拂ふ約束をなすもので、兌換券の如きこれである。支拂に當りこれを受領するときは、債務を償却すること恰も貨幣に於けると同一である。これが受領せらるる限りは、確實に貨幣の役目をなす。

三、約束手形、甲は一千法の商品を乙から買った。甲は乙に現金を以て支拂はないで、次の意味合の手形を與へる。

一、金一千法也

右の金額一八八二年七月一日に乙殿又は其指圖人に支拂可申候也。

この手形は讓渡することを得る。乙は丙に一千法の債務を有する。若し、丙が承諾するならば、乙は甲により署名せられたる手形に、裏書、換言すれば、其裏面に丙又は其指圖人に支拂ふべき旨の記載をなし、丙に交付し、よつて一千法を償却する。

手形は裏書により轉々する毎に當座の支拂作用をなし、満期日に至り支拂はるるに及び終結する。満期日に於て、最終の手形所持人は、その手形を振出したる最初の債務者にこれを呈示せなければならぬ。若し、債務者が支拂をせないならば、満期日後二日以内に所謂拒絶證書を作成し、拒絶を確定せねばならぬ。規則通りに拒絶證書が作成せられたならば、手形上連續

せる裏書人は各々償却の責を有し、第一の債權者乙(振出人)に對し不支拂による結果の損失を歸するのである。

四、爲替手形、これは約束手形と同じく創造せられ、確實に裏書によりて轉々せられる。單に形式が異なるのみである。支拂を約する者は債務者ではなく、債權者が債務者に對し支拂を命ずるのである。

一、金一千法也

右の金額三ヶ月以内に丙殿の名指人に支拂可申候也

爲替手形の大なる利益は、これが一の場所より他の場所に振出されたときには、正金を輸送することなく、兩地の相互的債務を決済するにある。例へば、ブラツセルの住民が巴里の丙に一千法の債務があるとす。甲は巴里に於て、乙より一千法を受けとらねばならぬ。而して、この金額に對しては手形を振出す。私は其手形を甲より買ひとりこれを私の債務者の乙に送る。丙は乙に呈示する。これが支拂はれた場合には、丙の債務は辨濟せられる。二つの債務は支拂はれ、貨幣は毫も一の都市から他の都市に送られないのである。

國と國との間に於ける交換も、亦殆んど正貨を輸送しないで同一に行はれる。されば、フランス人はベルギーで買った物の支拂をなすに當り、フランス人からベルギー人に振出された手形をベルギー人に送るのである。



五、小切手は、持参人のために一定の金額を一覽後支拂ふべき命令書である。

多數の人々が、同一の銀行と取引する場合には、各人の間の支拂は最も簡單なる方法とせらるる小切手及び振替によつてなすことを得る。私が甲に一千法の債務がある。私は二人共が取引をして居り、交互計算をなし得る同一の銀行に宛てた小切手を甲に交付する。銀行は私の貸の部換言すれば銀行に私が預けて居る方から甲の貸（銀行が甲から預つて居る方）の部へ移す。この振替は二行の文字を記入することによりて、支拂を結了するに足るのである。

フランス銀行は、その取引者間の相互の債務を振替の方法により決済すること、四百億法以上なりと言はれて居る。ロンドン及びニューヨークに於ては、主たる銀行の書記が、日日手形交換所と稱する所に相集り、各自所持する小切手を相互に差引勘定する。この計算の總額は、毎年ロンドンに於ては一千二百億乃至一千三百億法に上り、ニューヨークに於ては一千五百億法乃至一千六百億法に上ると云はれて居る。

六、倉庫證券及び預金證券、倉庫證券は商品を保税倉庫又は陸上倉庫に預け入れた證券であつて、信用を擔保するの用を爲し得るものである。併し、支拂の用具ではない。これに反して通貨又は地金の金銀類の預金證券は、その證券が表す總額につきて完全に支拂の用具を爲すものである。

七、擔保借用證又は質入證券、これは銀行の擔保債權の一部分を表すもので、證券は債務者

の財産に基きて發行せらるる。それに対しては利子を受くる權利と、抽籤により償還せらるる權利とが與へられる。擔保を差入れたる債務者は、利子と一定年限の終りまでに、その債務を消滅せしむるため割當てられたる年賦金を支拂ふべきものとせられる。

八、事業債券、事業會社主として鐵道會社の如きものによりて約束せらるる債務を表す證券である。

事業債券は一年又は六月毎に利子を受くる權利が附與せられ抽籤により償還せられ往々割増金が付せらるることがある。

九、都市の債券は都市の債務を表すものである。その條件は、前掲の事業債券に類する所が甚だ多い。

一〇、公債證券、公債證券は國家が借入のためなしたる債務を表すものである。

國家は、通常一定の期日に元金を返還しないで、利子を支拂ふ約束をする。そこから整理公債又は永久公債の名稱が來てゐる。

國家は債務を徐々に償還する方法として、減債基金により株式市場に於て其の公債の買戻しをなす。

以上七、八、九、一〇に述べた信用證券は長期の債券を表すもので、貨幣の用をなすことは出來ない。その他の物はある程度まで、貨幣の用をなすことを得る。貨幣の作用を完全になす

ものは單り兌換券があるのみで、終局には支拂はれるものである。昔、紙幣はカルタゴに於て用ゐられた。

ソクラテスの對話篇中、富の性質を論じ次の如く記載して居る。「カルタゴ人は次の如き貨幣を用ゐる。革の小片にはステール(希臘の貨幣)程の大きさのものが縫ふである。併し、何の用をなすために縫目を作つたかそれは分らない。刻印が施されてあるので、貨幣に用ゐらるるものであることは解る。今日では、山上の小石程の價值も有たないのであるが、其の當時に於ては右の物體を多く所有することが、富裕なるものであると考察せられたのである」と。

以上述ぶる所により、紙幣流通の不可思議なる點を總て解くことが出来る。數量に限りありて、法律によりて定められた價值を有するものとして、總ての支拂に受領せらるる物は、完全に貨幣と同額の作用をなす。其譯は、貨幣の用はその所有者をして貨幣と同等の名義上の價值を有する物體を、その欲する所に從ひて獲得せしむることに存するからである。金屬貨幣は、此の外に貨幣自體が貨物としての法定價格を有するの利益あるに過ぎない。

## 第五節 銀行

銀行は、信用作用と證券の流通とを容易ならしめる制度である。

銀行業者及び銀行は、固有の資本を所有しなければならぬ。併し、銀行業者及び銀行の業務は、ある人々より其の資本を預り、種々の方法により、これを他人に貸付くるにある。その主たる業務は次の通りである。

一、預金の受入、銀行は資本の所有者が使用する能はざる預金を受入れ、その資本を利用して得る者に貸付くるにある。その結果、銀行は借主の辨濟能力を知る必要がある。

銀行の利益は、預金者に支拂はるる利子と借主に支拂はるる利子との差金である。

信用の利用がよく了解せらるる國にありては、日日支拂をなす者は資金を銀行業者に寄託し、その預金中より小切手を以て支拂をなすのである。イギリスに於ける銀行預金は八十億法を超過し、フランスに於ける銀行預金は二十億法を突破してゐる。この方法により相互の債務は相殺せられ、通貨を使用せずして行はれる。

銀行が、通貨又は證券手形、兌換券を使用しないで、どういふ工合に交換を行ふかを述べて見よう。一の村落に於て各人が同一の銀行業者に取引を開いて居ると假定せよ。農夫はその小作料を支拂ふに當り、その金額を自己の貸方より地主の貸方に振替をする。地主はその家族を糊するパン代を支拂ふため、その代金をパン商の貸方の部に振替へる。パン商は穀物及び粉屋商人に支拂ひをなすに當り、この者の貸の部に振替へ、小麦を賣る農夫も同様にする。かくの如くにして、貨物は生産から消費に至るまで勞働の加工により順次に變形せられて轉々する。物

の所有権は同時に移される。けれども、各交換に於て其代價に等しき現金又は紙幣を使用しないのである。農夫の預金即ち銀行に對する債権がその所有を變じ、生産物の價格に歸すべき部分を各人に與へ、順次行はるる取引關係を決済する。

以上述ぶる極めて簡單なる實例は、驚嘆すべき信用の機關を説明するものであるが、かくの如きはイギリス及びアメリカに行はるる所である。

二、交互計算の開始、銀行は顧客に對し貸方及び借方の欄を設けて口座を作る。受け入れたる總額を貸方に計算のため支拂はれたる總額を借方に掲げる。その差引殘高が當然利息を生むのである。

三、商業證券、即ち指圖式手形、約束手形、爲替手形の割引、定期に商品を賣りたる者が、債務者の約束手形或は債務者に對し振出されたる爲替手形によつて、其の支拂を受くるとすれば、その債権者が職工、借料、食糧の買入等に對し支拂をなすためには、その證券を現金に換へる必要がある。若し、銀行業者が債務者及び裏書により最終の支拂に對し責任を有する債権者の辨濟力を信用するときは、銀行業者はこの證券を受け入れ満期日に至るまでの期間により計算をなし、即ち證券の支拂期日と利率により支拂はるべき一定額の利子を控除して、其の金額を交付する。この作用を割引と言ひ、利子の割合を割引率と云ふ。割引は實に證券によつて代表せらるる債権の買入である。

割引は信用の重要な作用である。

企業家と商人とは、通常商業證券によりて買入をなすものであるから、生産と交換の進行は割引によることが大である。

一八八一年に於て、フランス銀行が割引したる證券の總額は一一三七三九七九九〇〇法で、ベルギーの國立銀行が割引したる證券數二三四四三八〇枚其の總額二〇三四二二八二一五法である。

四、兌換券の發行、紀元八〇七年支那憲宗帝(唐)令を發し金銀貨幣を國庫に預託せしめ、これに換へるに證券を以てした。その證券は法貨として流通し完全に取引上受領せられた。世人はこれを飛錢と名附たがそれは極めて適しい名稱である。

ベニス銀行(一一七一年設立)、阿姆斯特ダム銀行(一六〇九年)、ハンブルグ銀行(一六二九年)、ロッテルダム銀行(一六三五年)は、各々其の金庫に預入したる正貨の純金屬の價值を有する金額を表す預證券を發行した。これ等の紙幣に對しては金又は銀の一定重量を請求する權利が付與せられ、其價值は往々公共團體の命令又は鑄造費により變更せらるる通貨よりも、支拂の方法としては却つて喜ばれた。世人は打歩を生ずる所の兌換券によつて、支拂金額を契約するのである。

今日では、信用證券は總ての文明各國に於ては一般的に用ゐられ、往々にして濫用せらるる

ことさへある。

一覽後持參人拂の兌換券は、法律に於て認められないにしても、支拂の用具として少くとも至る所に受領せられるものであるから、交換をなすに當り相識の人々の間でなければ流通せず、又相互の間にのみ責任を負はしめる商業證券に比べて優るものがある。

兌換券は、重量軽く巨額の計算に便利なる所から、金屬貨幣よりも好まれる。一八四八年後フランスに於ては兌換券の發行は、交換の必要に應ずるには不充分なる程度に限られたため、これを得るには打歩を支拂ふに至つた。

發行せられたる兌換券は、貨幣の在庫金額、貨幣に用ゐる地金、有價證券類を構成する割引せられたる商業證券によりて準備せられる。

發券銀行は、流通せる兌換券の三分の一に相當する在庫金額を所有せざるべからざるものとせられる。一八四四年の法律は、英蘭銀行をして従前よりも更に嚴格なる法規に服せしめた。千四百五十萬磅（三六二五〇〇〇〇法）を超過する兌換券の發行をなすには、金屬貨幣の増加に伴ひて交換の用具が増加するやうになすため、兌換券と同額の法貨或は地金を準備せざるべからざるものとせられた。

金銀が外國に輸出せらるる場合に於ては、發券銀行は割引率を引き上げ、在庫金額の適當なる水準を得しむるに努むべきは細心の命する所である。

政府は大恐慌に際し、往々強制通用を命することがある。銀行は一覽後兌換券の償還をなさざる特權を有することとなり、各人は總ての支拂に於て額面價格により不換紙幣を受領せねばならぬ。

この非常手段は、ある場合には銀行をして商人及び企業家に對し信用を貸すことを得しむる目的を有するものであるから利益といふべきである。又時には兌換券の形式により、公衆に流通を強制し、國家をして前借をなさしめることがある。これは弊害であつて、不換紙幣の發行大なれば大なる程、それ丈けその弊害が多である。

兌換券の數量が、流通の必要額を超過する場合には、恰も貨物過剩の場合につきて見るが如く其の價格は下落する。其の下落は總ての物價の騰貴によりて表される。これは紙幣の單位の價值と金屬貨幣の同一單位の價值とを比較することによりて測定することを得る。かくして、ロシアの銀貨一留は四法の價格を有するも、紙幣一留は二法七十サンチムの價格あるに過ぎない。

一八一〇年、イギリスに於ては、金貨一ギネー又はこれと同量の金を得るには、紙幣一ギネーと四分の一を與へねばならないのであつた。

兌換紙幣は紙貨である。紙貨の所有者は危険を受けないで、これが償還を要求し得るものであるから、金屬貨幣の平價を維持するは必然である。

強制通用力を有する不換紙幣は紙幣である。發券の過多なるに比例して其の價值は下落する。これが最も顯著なる實例はアシニヤール(Asien)である。フランス共和國が僧侶並に移住民より沒收したる財産は、其の價格五十億乃至六十億法であつた。その賣却を容易ならしめんがため、政府はミラポールの提議に基きアシニヤールと稱する手形を發行した。國家の資産をあてがふの故を以て、かく名付けたのであつた。土地を買ふ者はこの手形を以て支拂ひ、手形の復歸せらるるに従ひてこれを廢し、總ての土地が賣り拂はれたるときに、總ての手形を廢滅せしむるにあつた。アシニヤールは一七九二年の終頃までには、二億リールであつたが、兎に角額面の價格を維持して居つた。併し、戰時の急を救ふため、約四十五億リールのアシニヤールを發行した。價格は發行高の増加するに従ひ下落した。一七九五年の夏には、百リールのアシニヤールは辛ふして銀貨一リールの價格を有したに過ぎなかつた。而して、この價格は日々著しき變動を受けた。一足の長靴にも千五百リールを拂つたのである。

一七九六年七月、アシニヤールの法幣價格強制通用は廢止せられた。

以上の事實より生じたる重要な教訓を述べれば、銀行貨幣は假令これを保するに不動産を以てするも、流通の必要額を超過するときは其の價值を低落するものなることである。

## 第六節 發券銀行の自由設立

兌換券の發行は、その行爲につき責任を負ふべき人及び會社に許可すべきである。併し有限責任會社は普通法の例外をなすものであるからこれに對しては發行を禁止しなければならぬ。

貨幣の管理は、常に國家の權限に屬するものとすべきは世人の認むる所であつて、又正當とせらるゝ所である。貨幣の數量は物價に影響を及ぼし、従つて財政状態及び各人の法律關係にも影響する。假令兌換券は紙幣であるとは言へ、金屬貨幣と等しく物價に影響するものである。北アメリカ合衆國の歴史は、兌換券の發行を無制限に自由ならしむることの明に危險なるを示してゐる。

文化の進歩は、地方的の貨幣を國家的の貨幣に、國家的貨幣を國際的の貨幣に流通せしめんとする。同一の進歩が、兌換券につきても實現せられなければならぬ。

交換の用具が單一なることは最大の利益であつて、複雑なることは最大の不便である。

## 第五章 貨幣上の恐慌商工業上の恐慌

### 第一節 恐慌の性質

恐慌は信用の病弊である。それ故、信用の利用せられざる諸國にありては恐慌を免れる。恐慌は時には炎症の如く急激に來ることあり、又時としては貧血症の如く緩慢にして一見輕きが如きも危険なることがある。

恐慌は交換に一大混亂を生せしめ、其の結果生産に多大の損害と數多の破産とを惹起する。恐慌を區別して三種類とする。

- 一、貨幣上及び商業上の恐慌、
- 二、工業上の恐慌、
- 三、投機的恐慌、

以上の經濟的現象を知得するは、最も重大なることである。何となれば、これ等の經濟上の現象を知ることには、損失の危険を少くし利得の方法を増すものであるからである。

### 第二節 商業上及び貨幣上の恐慌の週期性

十八世紀以來、即ちイギリスに於て信用が一般に行はるるに至りてより、經濟上の恐慌は殆んど十年目毎に起つた。こゝに、その期限を擧ぐれば次の如くである。一七六三—一七八三—一七九三—一八〇三—一八二五—一八三八—一八四七—一八五七—一八六四—一八六六、一八七三より一八七九。

世人は恐慌の週期性を以て一種の自然法であると信じた。イギリスの數學者にして經濟者たりしゼボンス氏は、恐慌は太陽の黒點により其の時期を定め得るものとさへ主張した。恐慌の主要なる原因は通貨の輸出である。通貨は、收穫の不作なる年に際し輸入せられたる小麦の支拂をなすため外國へ出る。凶作は夏の天候不順なりしがためであつて、天候の不順は太陽の黒點が原因をなすものである。

この説明は巧ではあるが、事實には一致しない。

恐慌の週期性は自然法ではない。恐慌の週期性は恐慌を生せしむる情況の推移によつて説明せらるる。財政學は恐慌を追祓ふ術を教へるものである。

## 第三節 恐慌の特色

恐慌は、通常好景氣が數年續きたる後に爆發的に起るものである。資本は蓄積せられる。市場に對する資本の供給は利率を低下せしめる。貨幣低廉なるがため企業心を刺戟する。多數の會社が設立せらるる。會社の資本を表す株券の買手が極めて多くなる。その價格が上騰する。これを買ふ者は大なる儲をする。各人は夫々大儲をせんと欲し株券を買ふ。そこで、騰貴は繼續し騰貴が齎す加増的利益による需要を刺戟し、毫も損失をしない。觸るゝ所總て黄金に變化せざるものはない。これは、恰もバクトール川の水（昔物語に出るリヂアの小河で、これに浴したる者は總てを黄金に化すと云ふ）の如きものである。

物價も亦騰貴する。その譯は、富者は總て大なる消費をなすからである。

以上は膨脹の時代である。この膨脹時代は總ての形式に於ける信用の利用に其の基礎を置くのである。

收穫不足のため法外の穀物を輸入し、或は外國に巨額の投資をなしたるがため、信用の基礎たる通貨を吸収せねばならぬやうな場合が起る。

整調機たる銀行は割引率を引上る。信用は縮少せられる。信任は消失する。不安が瀰漫する。

恐慌表れ、各人は賣らんことを欲するも買手は無い。物價は下落し尙常に下落せんとする。信用は絶對的に拒絶せられる。これは誘導の時代である。支拂をなすべき者は借ることも出來ず賣ることも出來ないので破産する。破産者は續々出る。これが恐慌である。恐慌はその暴威を持續することは出來ない。物價が極度に下落するときは、更に買手を誘導して、通貨と信用とは復活する。併し、恐慌の損失を恢復するには數ヶ年を要する。これが回復の時代である。膨脹の時代が次で始り新しき恐慌に達する。かくの如く相互に膨脹と恐慌との結果を生ずる。相連續せる事實により、恐慌が九年乃至十年の週期性を有することを明に説明し得る。

商業上及び財政上の相互關係が容易に行はれ極めて密接となりしことが、文明諸國全體を恰も一大市場とならしめてよりこの方、一二國の間に起る恐慌も其の反動によつて、他の諸國に對し損害を與へることゝなつた。次に掲ぐる實例は明にこれを證明する。

一八五七年の恐慌は、北アメリカ合衆國に於て九月に始つた。十月十三日には頂點に達した。割引は百に對し五十乃至六十に上り、一人としてこれが支拂をなすものはなかつた。總ての銀行は其の拂戻を停止した。破産者の數は五一二三人、負債總額は十五億法なりと計算せられた。恐慌は十一月に至りイギリスに波及し、未曾有の暴威を逞ふした。イギリスよりハンブルグ、スカンデナヴィアの各地、コペンハーゲン及びストックホルムに及んだ。恐慌は終に北部ドイツ、ウイーン、エヂプト、印度、ジャバに感動し、終に世界を一週して南米のチリ、ペノスアイレ

ス、リフジャネロにまで達した。財政上の旋風は、大氣の如く西より東に進み、其の足跡を印する所遍く損害の種子を蒔いた。

人類の連帯は災害に對しても又福利に對しても、益々有效なるものであることの重要な真理は、以上の事實によりて明にこれを證明することが出来る。

緩慢に來る恐慌は通貨縮少の結果である。一八七三年より一八七九年に至るまでのヨーロッパ及び北アメリカ合衆國に起つた恐慌はこれを典型的のものとして確認することを得る。物價は低下した。利益は毫もないか或は最少であつた。資本は徐々に形成せられた。利子が低減せられても企業心は刺戟せられなかつた。經濟的活氣は衰弱したのであつた。

#### 第四節 商業上及び貨幣上の恐慌

商業上及び貨幣上の恐慌は種々の原因によつて生ずる。即ち新市場の開発、過度の投機心を刺戟するが如き極めて低率なる利子、食糧品を夥しく輸入せなければならぬ凶作、一八一五年及び一八七一年の大戦の終局に見たるが如き通商上急激なる變動等である。

以上諸種の原因は、次の如く總括することが出来る。

一、信用證券を通貨の如く極めて一般的に使用すること、兌換券、商業證券、小切手、預金

等は通貨を以てする支拂の約束又は命令であるのに、これが支拂をなすに足るだけの通貨はなかなか存在しないのである。そこで、恰も極めて狭少なる金屬貨幣の基礎の上に、信用と云ふ廣大な架空的建設物が置かれるのである。イギリス北アメリカ合衆國に於ける取引の十分の九、ヨーロッパ大陸に於ける取引の四分の三は信用によつて行はれる。これを支ふるだけの信用があれば、完全なる機關は驚くべき作用をなすのである。併し乍ら、信用が減縮するときは、これに基ける紙幣の作用も收縮し、物價は下落する。收縮と下落とが強硬にして突發的なるときは恐慌が生ずる。

膨脹時代には短期の負債が著しく多數に契約せられる。即ち、免債せられない株券或は社債の發行の豫約、換言すれば、資本を繼續的に拂込まねばならぬこと、價格の騰貴を豫期し、證券及び貨物を信用によりて多量に買入れること、又僅少の利子を得て外國に投資すること等のためによるのである。信用に基く巨額の負債は言はゞ恐慌の病的要素を成すのである。

三、恐慌を決定する原因は常に現在の通貨の數量の減少である。この減少は時には貨幣の輸出により又時には内部に吸収せらるるがために起るのである。この貨幣の減少は信用機關の運轉を維持する銀行の財源を制限する。信用機關の運轉は最早通常の作用をしなくなる。交換と支拂は全く中止せられる。その結果は損失、破滅、破産、一言すれば、恐慌を生ずる。



### 第五節 恐慌の豫防と救済策

疾病を豫防しこれを治療するには其の病源を打破せねばならぬ。原因の性質は救済の性質を指示するものである。

一、信用を使用するにつきては、充分なる通貨の本源を維持せねばならぬ。北アメリカ合衆國及びイギリスは通貨の本源維持の程度を越ゆるものであると云ふことは諸家の説が一致してゐる。フランスが以上二國に比し恐慌に苦むこと少き所以は、金屬貨幣の流通比較的多きによるのである。

恐慌によりて蒙る損失は、通貨の使用を節約するによりて得たる利益よりも大である。

二、過度の膨脹に際しては、定期の負債を増加しないでこれを制限しなければならぬ。

三、極度の膨脹を調節し、又は輸出せられたる貨物を復歸せしめんがため、時機を見て割引率の引上をなすべきである。割引率の引上は物價を低落せしめ、買手を引きよせ、その結果貨幣をも招致するであらう。

### 第六節 産業上の恐慌

産業上の恐慌は前述の如く一般的のものではない。時には一の産業を侵し、時には他の産業を害する。これを生ずるには種々の原因がある。

一、重要敗路の閉鎖、例へば、一八六四年北アメリカ合衆國の南部諸洲が、總ての港灣を封鎖したるが如きこれである。

二、新なる競争、北アメリカ合衆國が小麥を極めて廉價に提供せしがため、西部ヨーロッパの農業が打撃を受けたるが如きこれである。

三、生産の過剰、一の産業が格外なる利益を生ずるときは、多くの資本はその産業に集中せられ、多くの新工場が設立せられる。生産は消費の需要に超過する。物價下落し優良なる器具機械を備へないものは失敗に終る。ここに於て過剰生産の恐慌が生ずる。

### 第七節 金融市場の恐慌或は財政上の失敗

この種の恐慌を財政上の失敗 (Krisis 土崩) と呼ぶは、土崩の瓦解するが如く急激に來るを

意味するのである。

若し、その性質と原因とを知らんとせば、ロー制度の歴史を一讀する必要がある。スコットランド人、ローは一七一五年にフランスへ來た。その財政上の智識と嚇々たる英才とを以て攝政を誘惑し、總ての國政を自己の思ふままに其の手に收めた。ローは英蘭銀行に則りて銀行を設立し、オランダの會社に倣ふて商事會社を創立し、アジア、アメリカ及びアフリカとの交通を其の手に獨占せしめ、收税の請負をなさしめ、よつて國債の償還をしたのであるが、其の額は十五億法であつた。ローはこの驚くべき事業をなすために、額面五百萬リブルの株券六十二萬四千株を發行せしが、その株券は壹萬リブルに暴騰したから、總計六十二億四千萬リブルを表し、尙此外銀行紙幣十七億リブルを發行した。ローは同時に投機の目的を達し、これを精神錯亂の程度にまで押しつける方法に出た。世人は競争的に株券を得んとした。これに觸るる者は一舉にして富をなしたからして、各人は其株の高價を論せず、これを手に入れんと欲した。株券は絶へず上騰し一七二〇年一月五日には一萬八千リブルの狂價に達した。投機商は數日にして巨萬の富を造つた。總ての物價は騰貴し各人は富を致した。併し、忽ちにして疑心を生ずるに至つた。株券は下落した。ローはこの瓦解を阻止せんと企て、銀行紙幣發行の方法により、九千リブルを以て買戻さんと試みた。そこで紙幣は不信用となつた。公衆は如何なる種類の紙幣をも顧みないで、金屬貨幣のみ希望するに至つた。貨幣は隠匿せられたの

で世上には有つべき貨幣がなくなつた。總てが土崩瓦解した。一時は一千億法の價を表して居つた證券及び紙幣の堆積は信用の消失と共に與へられた價値を失つた。

財政上の失敗の特質は、二つの意味を有つて居る。公衆の熱狂が價値を上せしめる。熱狂一般的なれば其の上騰著しく、且繼續的にして、利益は巨額に達する。このことは買手を惹き付ける。買手多ければ各人の儲け大なるべく、各人の儲大なれば買手は多くなる。黄金の雨が各方面に降る。併し、僅かの躊躇から下落が突進し、總てが瓦解するに至るのである。

この大廈高樓は、信用によりて創設せられたる唇氣樓であつた。幻影は消えた。實物は毫も消失しない。併し乍ら、富の變動をなさしめたのである。伶俐なる者は富を作り輕信者は失敗したのであつた。

## 第六章 自由貿易及び保護貿易

### 第一節 自由貿易

コルベルが、ある商賈に貿易を盛ならしめる最良の方法如何を問ふた。ところが、商賈は「爲

すに任せよ行くに任せよ」と答へた。

この言葉は(1)グールネーによつて繰り返された。この言葉は、今日では自由貿易と呼ばれ、自由貿易論者の標語となつた。

註(1) Jacques-Vincent de Gournay (1712-1753)は經濟學の智識の方面に人心を向けしむる上に與つて力のあつた人であるから國民の記憶に價する者であると、Furgotは其の著譯辭に書いた。氏の思想はその賞讀者が公刊したる摘要中に僅にこれを窮知し得るに過ぎない。

各人をして、國內又は國外の最も利益多き所に於て、貨物の賣買をなすことを得しむるは、實に最も自然の性質に適ふものである。

國家が歳入を得んがため苛税を課するは不可なりとすべきも、ある外國品の輸入に對し關稅を課するは正當とすべきであるとは今日も尙行はるる通説である。併し、內國産業を保護する口實の下に、關稅を課するは不公平で、一般の利益に反する。

消費者をして、外國に於て製作せらるる貨物より高價なる內國品を買入れしむることは、內國の生産者の利益を圖るため、消費者に課税するものであるから公平でない。保護貿易の學說をなすものの不當なることは、以上述ぶる所によつて明である。

併し、其の目的とする所は、勞働と勞働者との利益を圖るにありと主張する者がある。それには二個の誤謬がある。

第一の誤謬、一經濟の目的とする所は、勞働を増加するにあらずして、これを減少することにある。若し、私が一日の勞働により外國より織物一メートルを買ひ得るとすれば、二日勞働してこれを得ざるべからずとなすは經濟の目的に反する。

生産を増加せずして勞働を増加するは(1)パスチアの正當に云ひし如く、サイシフユス主義(徒勞)である。何となれば人類に對し有益なる効果を擧げ得ざる努力を強ふるもので、常に落下せんとする岩石を山頂に向つて轉すべきことを命せられたるサイシフユスの例に似て居るからである。求むべきは富の増加と努力の減少である。

註(1) Frederic Bastiat (1801-1850) 經濟學に關し多くの著述をなした人であるが、その最たるものは經濟調和論である。氏は新説を發見する所なく、既に説明せられた思想を曖昧ならしめたものさへあつた。併し、行文の明確にして犀利なりし所から、經濟上の智識を普及せしむる上に貢獻する所が大であつた。

第二の誤謬、一自然を無視し、法律により職工を大工場に押し込むが如きは、彼等に害を與ふることあるもそれが効果はあり得ない。

イタリーの現状を見よ。イタリーは山紫水明にして氣候溫和なるを以て、勞働者は戶外にありて勞働するのに、關稅により外國品の輸入を制限するがためこれ等の勞働者を戶外より陰鬱なる工場に束縛し、一日十二時間乃至十四時間、器械の單調なる運轉をなさしむることは、實に憐れむべきである。

自由貿易は、各國人民の分業の原則を適用し、その恩澤を確保する。かくして、著しくその福利を増進する。

一家族の内にありて、各人が其の最も適する所を利用し得るとすれば、總收入も多大である所から、従て、各人の分前も出來得る限り大となるべきは明である。これに反し、法律の制限あるがため、各人が其の時間を得意とせざる勞働に用ゐざるべからざるものなりとすれば、總て各人のなす所は拙劣たるものがあらう。以上述ぶる所を各國家に適用して見よ。各國は自然が特に惠與する勞働に其の勢力を用ゐ、最少の努力によりて得たる多くの生産物を以て交換をなすに於ては人類の幸福は各國の勞働の生産力の増加に比例して増加するであらう。

自給自足せんと欲する人は、其の需要する總ての物、食物、靴、衣服、家具及び書籍を完成せんと努むるものであるから、其の工夫の拙劣なるべきは明である。これを模倣せんとする國民は果して賢なりと云ひ得べきであらうか？

私の畑地は、砂地で小麦を作るよりも裸麥を作るに適して居るとすれば、最も費用少くして小麦を得る方法は、私の畑地を耕作することではなくして、私の砂地から得た裸麥と粘土性の耕地に生じた小麦とを交換することを要求するにある。この眞理は、私をして砂地を耕作して小麦を作らしむることを強要すると同じやうな保護貿易制度の矛盾を明に指摘するものである。

併し、尙保護貿易論者の主張によれば外國人はその生産物を我國内に押し寄せて來るであら

うと論ずる。これは杞憂である。外國は何等の對價を出さないのに、其の生産品を與へるものではない。彼の生産物を與ふるに對して、我が生産物を得んと欲するのである。

通商は常に生産物と生産物との交換である。輸入多ければ輸出も多くなる譯である。輸入輸出に超過するときは喜ぶべきである。何となれば、外國人が我國に貢税を支拂ふこととなり、我々は多くを費消し得るからである。輸出が輸入に超過すればそれは悲むべきである。何となれば此の場合には我々が彼に貢税を拂ふことになるからである。

茲に於て輸出入額の差なる難問に觸れる。私共は次節にこれを論ずるであらう。

保護貿易論者は、外國人をして其の買入れ超過額を貨幣により支拂はしめんがため彼等に多くを賣り少く買はんと欲する。この主張には大なる矛盾がある。相互に交換をなす各國がどうして常に買ふよりも多くを賣ることが出來るであらうか？これは明に不可能である。

産業進歩の主たる原因は、既に説明したるが如く産業の競争であつて、各人が其の顧客を獨占せんがため最良品を特に廉價に製造せんと努力することにある。競争が廣く一般的に行はるるならば、總ての者の利益は大となるであらう。従つて、競争はこれを一國の境界内に制限せずして、普く國々の間に擴張せしめなければならぬ。

獨占は無氣力を生ずるものであるから、保護は破滅である。これに反し、總て改良の志ある企業家は國際市場を維持せんとして、世界市場に勝を制するであらう。

二國間を連結する鐵道の效果如何？。それは二國間の交易を便ならしめる。外國品に課する關稅の效果如何？。それは交易を阻害する。

同一の人類が、同時に其の結果全く相反する二つの事を爲すとすれば、どうなるであらうか？、四、五千萬法を投じて、アルプスを貫通するトンネルを穿ち、その兩出口に於てフランスとイタリアとが稅關吏を配置し、關稅を徵收するとすれば技師の科學的驚異より成りし物の效用の大部分は破壊せらるるであらう。何たる解き難き矛盾であらうぞ。

保護貿易論者にしてその主義を貫く者は、機械の破壊を要求せなければならぬ。何となれば、機械と自由貿易とは明に同一の效果を有するからである。機械は生産を得るに必要な労働を節約する。最少の費用を以て石炭を得ることが出来るのは機械の恩惠である。廉價に石炭を得ることが出来るのは外國人の御蔭である。その結果は同一である。

外國人を排斥せんとする者は、亦機械をも粉碎せねばならぬ。その結果は石炭の同一量を得んがため二倍の努力を必要とすることとなる。

資本が、最も有利なる使用の方向に歸嚮せんとするは自然の數である。保護貿易制度は消費者より取りたる稅によりその差額を償却し、最も薄利なる使用に轉向せしめる。生産はそれだけ減少せられる譯である。

最後に、保護貿易論者によりて援用せらるる議論がある。

その説く所によれば、第一に必要な物、例へば、小麥、鐵の如きに至りては一國は外國に依頼することは出来ない。何となれば戰時に於ては、最早自給することも防衛することも出来ないからである。

これに對しては、戰時に於て必要物に缺乏したる人民の實例は未だ嘗てこれを聞かないと答へよう。今日にありては昔時よりもこの恐れは更に少い。第一に鐵道のため糧食補給は容易となり、第二に一八五六年の巴里條約により中立國の船舶は絶へず交戰國の貨物を運送することを許された。

故に一國の嚴密なる封鎖は、昔時に比し一層困難となつた。

遠き又可能性少き他の損害を避けんがために、永久的にして確實なる損害を蒙らんとするは愚な話ではなからうか？。

## 第二節 輸出入の差額

輸出入の差額とは一國に於て生ずる輸出入の比較である。

輸出の總額が輸入の總額に超過するときは、其の差は外國人より正貨を以て決済せらるべきものであると信せられて居る所から差額は有利なりと言はれる。これと反對の場合には、その

國は輸入の超過部分を貴金屬により支拂はなければならぬ所から不利なりと言はれる。

世人の此の計算は誤つて居る。實に、一百万法の貨物を輸出すれば税關はその輸出を登録する。併し、その貨物を運送する船舶が難破すれば、その代りに買ふべき何物をも持たないのであるから、輸入に超過すること一百万法である。それだけその國は損失を蒙つたこととなる。これに反し右の貨物が目的地に着荷し、一百万法に賣却せらるるとすれば、これを以て他の貨物を我國に輸入し新なる利益を得る。税關は輸出一百万法輸入一百万法と登録するから差額五十万法は不利である。然るに、差額五十万法はその國の富となつて居るのは確實である。

世人の附言する事實は以上の實例を強くする。何となれば最も富裕なる國は輸入の超過せる國であつて、例へば、イギリス於ては二十億法以上超過し、フランスに於ては近年十億法の超過である。

イギリスに於ては一八八〇年に輸入の輸出に超過すること三十五億法なりしが、計算せらるる所によれば、その中二十億法は運送貨保険料及び商人の利益であつて、十五億法は外國に投資せられた資本利子である。

併し、私の考察では輸出入差額の古き學説は全然誤れるものではない。今日にありても、尙事務家は細心なる又間々氣遣はし氣なる眼を以て輸出入差額の變動を觀て居る。

實際輸出入の通常の差額が混亂せらるること、例へば、兎作の缺乏を満たすため必要なる穀物の支拂をなすが如き場合に當りては、輸入の超過額はこれを正貨によりて決済しなければならぬ。交換の用具にして需用の基礎をなす所の貨幣が缺乏するとせば、其の結果困難と恐慌とを將來するのである。

### 第三節 自由貿易論者の主張

目的とする所は労働の減少にして、これが増加ではない。自由貿易は機械と等しくこの目的を達せしむるものである。されば、二者共に幸福を與ふるものなることは寔に明白である。

併し、労働のみによつて生活せる人類ありとせよ。その労働を廢するに至つたならば、その者は自滅するより外に途がないであらう。

自由貿易は恰も機械と同じく労働者の場所を轉せしむる。何となれば労働者は最少の努力を以てより多くの生産物を得んとするものであるから、實入りの少い労働に對し關稅を課する場所を去るからである。

フランスに起つた一七八九年の革命が、昔時各州を分離せしめたる内國關稅を打破したのはこれがためである。

今日諸國を分離する關稅を廢止したならば、同じ結果を生ずるであらう。移動が行はるるならば、人類の勞働はより多く生産的となる所から、至る所に於てより多くの供給を受けるであらう。併し、彼等は事實さう言ふ工合に配置せられて居らないから、それがため多少の苦痛を伴はないでは濟まぬ。

結論はかうである。法定專賣により、勞働者をして自然が彼等に對し充分なる報償を與へない場所に於て勞働に従事せしめてはならない。若しかくの如きことありとせば、細心と先見とを以てその賃金表を改正すべきである。

#### 第四節 一時的保護制度

ドイツの經濟學者にしてドイツの政治的統一の基礎たる關稅同盟 (Zollverein) の創設者たりし、(1) フリードリッヒ・リストほど一時的保護制度をよく説明した者は他にない。

註 (1) Friedrich List は一七八九年 Reutlingen に生れ、一八四六年 Württemberg に歿す。氏の傑作は國民經濟學と稱するものにして *Herrn Krichelot* によりて佛譯せられた。その根本思想は經濟上の結論は國家の獨立を以て定むべきものであると謂ふにある。

氏の說によれば、最後の目的は世界的自由貿易にある。併し、自由貿易が、各國、從つて人

類に最大の利益を與へんがためには、各國民がその自然的資源を最もよく利用せねばならぬ。單り農業にのみよる國は必ず進歩に遅れる。昔のポルトガルを見ればよく解る。

特權によつて人為的産業を起さしめることの弊害あることは疑を容れない。併し、その國に適する自然の産業は初めに保護せられなかつたならば發達しないであらう。それ故自由貿易に到る捷徑にして最も多くの利益を獲ち得る最良の方法は一時的保護制度である。

アダム・スミスとスチュアルト・ミルは同一の意見を發表した。その前提も斷案も、二つ乍ら私の承認する能はざる所である。

農業國は必ずしも進歩に遅るるものではない。若し、リストの主張せしが如くオランダが嘗て進歩に遅れて居つたとすれば、それは輕薄なる貴族政治が純收入を處分し、これを歡樂のために使用し、農奴及び貴族自身のため毫も施す所なかりしによるのである。新英國は保護貿易により大なる産業の發達をなしたが、これより以前に於て既に智識及び道德の開發、安樂と幸福は一般に普及せられて居つたことは、他に其比を見ないのであつた。

一國文化の程度を測るに當つてはその國の産業が生ずる生産物の量によるのが常である。併しこれは誤である。文化の燦爛たりしことアテンに及ぶものは曾てこれを聞かない。そこには美術と文學が最高度の完成の域に達して居つに。併し、産業は極めて幼稚であつた。今日に於ては、最早アダム・スミスの時代に於けるが如く、保護の必要はない。發明と生産方

法とは直ちに限りなく知れ渡るのである。それが如何なる國であらうとも、資本と企業心とは自然の富を開拓せんがため常に探られて居るのである。

特權により創設せられたる利益は、凝結して總ての改革に對し反抗せんとするものであるから、一時的の保護も永久的のものたらんとする傾向がある。

### 第五節 相互貿易の制度

この主義の主張者の謂ふ所によると、自由貿易はもとより望む所であるが、それは相互的で双務的のものでなければならぬ。外國がその境界を開くにより我も境界を開くのである、即ち彼が我が生産物に課税するが故に、我も彼の生産物に課税すると言ふのである。これは恰も反座制の法律が通商上に應用せられたのである。これは、亦開戦に對する報復である。この制度は今日イギリスに於て、自由貿易に對し公正貿易 (fair trade) と唱へらるるものである。

自由貿易論者は答へて曰く、外國が我が生産物の輸入に對し課税するときは我は損害を蒙る。併し、我國が彼國の生産物に對し課税するならば、我國は外國の生産品に對し高き支拂をせねばならぬこととなるから、第二の損害を蒙ることとなるであらう。その譯は、外國が我國を害し我國は自ら罰金を科するが如きものであるからである。彼は我れを貧乏ならしめ、我も亦滅

亡するのである。

相互主義は、戦争の手段としてにあらざれば、これを保護することは出来ない。併し、この名義あるがために、相互主義は總ての通商條約の基礎として役立つのである。外國の重要生産品に課税するに當りては、我國は彼國の事業主と同盟するのである。その譯は彼國は我國の關稅率を低減せしめんがため、我國に對し讓歩を請求するからである。

相互主義は自由貿易主義の義務教育である。

### 第六節 通商條約

各國は、各種貨物の輸入に對し支拂ふべき關稅目錄を決定する。これ世人の普通稅則と稱するものである。

次に一國は他國と通商條約を協議し、他國の生産品に對し稅率の低減を許す條件の下に、ある特殊の貨物に對する稅率の低減を協定する。

各國は、最も重要なものとしてその繁榮を期する産業に對し稅率を最も輕からしめんとするのである。フランスは葡萄酒と絹布とに對し、ベルギーは石炭と鐵とに對し、イギリスは綿と錫とに對し稅率を最も輕からしめんことを主張する。



締盟各國は往々その中の一國が他國に與へたる減率に對し、殘餘の各國もその利益を享くべきことを約定することがある。

これは最惠國約款である。

通商條約の利益は産業に對し重要なることを保障する。即ち、條約期間中外國關稅制度の安定を保つことである。

今日にありては、通商條約は政治上の條約よりも重要である。何となれば各國産業の進歩の繁る所は主として通商條約であつて、各國間に於ける通商關係と共同利害との發達は最も重要なものであるからである。

## 第四編 富の消費

### 第一章 富の消費を論ず

#### 第一節 消費とは何ぞや

パンは、農夫、製粉業者、パン製造人の連續せる勞働によつて生産せられる。私はこれをつてもその物質は殘る。私はその一分子でも絶滅させることは出來ない。併し、パンの形に於て私を養ひ得る性質、換言すれば、パンの效用は失はれる譯である。そこには財貨、即ち、富の消費があるのである。されば、消費とは財貨の用法に従ひ、即ち生産が事物に與へた所の效用を破壊することである。

物の效用は、人類の使用以外によりて滅失せらるることがあり得る。家屋の燒燬、牛活又は生産の方法に於て趣味の變化したるがため用をなさざるに至りたる物、例へば、駕籠、砂時計の如し。以上の場合に於ては、富の滅失或は減少がある譯で消費がある譯ではない。

ある經濟學者は、消費に關する部分を經濟學の研究範圍より除外せんとした。その説によると、自由、道徳、衛生に關することは別個の學をなすものであるとなすのである。

これに反し、古人が經濟學に觸れて論じたる所によれば富の利用がその重要な部分を占めて居つた。第一生産は消費の需要に従ひてのみ行はるるものであり、第二に人類の發達のために富を役立たしむることは、經濟學の最終の目的とする所であるから、古人の考察したる所には正當の理由が存する。富の合理的使用は人民の幸福を成すもので、これは明に總ての社會科學につきて見る所である。

富を巧に分配し、これを巧に利用することは、生産を増加することよりも重要なことである。されば、ゼノフォンが極めて正當に言ひし如く、總ての富は、これが利用の道を知る者に對してのみ有用なるものである。

そのことは、論理學と衛生學とが經濟學に課するに至つた命令を出費に關する規矩の中に存する。その數は頗る多いがその中の二三につきて述べて見よう。

眞に不生産的なる消費はこれを抑壓せよ。

生産的消費を經濟學の規定に一致せしめて指導すべし。

消費をして道徳、智識及び身體の才能の發達を利するやうに規律すべし。

必要を満足するに先ち、一物をも冗費すべからず。

必要を満足する以前に何物と雖も過剰あることなし。

一物をも無用に失ふ勿れ。地上に遺棄せられたる一本の針を拾ひ、尺牘の餘白を利用するが如きも富をなす所以である。沼澤と砂地の中に、オランダ國を建設せしめたるものは節約の力である。イタリアの諺に言へるが如く、小も積んで大をなす。(塵も積もれば山となる)。

節約は自己に對する義務たると同時に、他人に對する義務である。十八世紀の女丈夫、チョープリン夫人は常に智識階級の者に對しては御馳走をなし、貧者に對しては財布を開放した人であつたが、節約は仁惠の母なりと遊戯札に彫つてゐた。

假令収入は少なくとも、その一部を割きて自分が招いた罪からではなくして貧乏のどん底にある者に與へよ。併し、其の惠與は常に勞働を奨励するやうにすべきであつて、決して怠惰を奨励してはならぬ。

有害なる消費を助けてはならぬ。「予は飲酒者が其の憂を忘れんがため、酒が必要であると言つて居るのをよく聞く。併し、飲酒を謳歌するよりも寧ろ其の憂を減ずることよけれと思ふ」(ジャン・バプチズム・セークール・コンプレ第七章九節)。

總てに注意し、何物をも忽にすべからず。東洋の諺を想起せよ。「釘を抜きたるため馬はその蹄鐵を失ひ、蹄鐵を失ひしたため騎士は落馬し、落馬せしたため敵の擒となり虐殺せられたり」と。又ガールフィールドが、その軍隊を指揮するに當り口癖に言つたことは、「秩序を保てよ、勝利は砲

車の車輪に繋る」と。

## 第二節 消費の種類

消費は次のやうに分類することが出来る。

一、消費する人格者に従へば個人によりて行はるる私的消費と、公共團體即ち、國家、郡、市町村によりて行はるる公的消費とに區別せられる。

二、消費の繼續する時間に従へば、急速なる消費と、緩慢なる消費とに區別せられる。

辯護士の意見、或は醫師の診断の如き勞働は、直ちに消費せらるる。食料品の如きにあつては葡萄酒罐詰類を除きては、數日、それ以上一年後に消費せられ、衣服に至りてはこれよりも長く使用せられ、家具、建物に至つては、更にこれよりも長く使用せらるる。

緩慢なる消費は、有用物の蓄積に好都合である所から、急速なる消費に優る。一瓶五法の葡萄酒を飲めば一時間の享樂の後には毫も殘存しない。同じ金で良書を購へば、一生涯趣味と教訓とを得て、死後はこれを子孫にまで及ぼすことが出来る。

總てを飲食に消費するときは貧窮する。家具の立派に備付けられた壯麗なる家屋は、勤勉にして幸福なる家族の巢窟である。

オランダでは田舎に於てさへも、至る所何一つ不自由をして居らぬ樂しき人家を見るのである。理智に富み先見の明ある人民であるオランダ人は、家庭即ち團樂の住居を創造したのである。

三、消費の結果に従へば、これを不生産的消費と生産的消費とに區別せられる。

合理的慾望を満足するため、生産物を消費するは生産の目的である。されば、消費は生産存在の理由で經濟的活動の最終の目的である。

併し、私が費消する間は私は生産せねばならぬ。若しさうでなかつたなら、私は貧窮に陥り萬事休止するのであらう。

されば如何なることあるも、消費は生産的でないならぬ。

消費が毫も生産をなさざるときは、消費は不生産的なるか、或は不毛である。懶惰者は他人の勞働の果實を奪取するにあらざれば生活することを得ない。

不正義な戦争に用ゐらるる火薬は、不生産的消費で致命的なものとさへ云ふべきである。石炭坑で用ゐらるる火薬は生産的消費である。何となれば、機械を運轉する石炭はこれによりて得らるるからである。

四、消費は尙享樂のためにする消費と、産業のためにする消費とに區別することが出来る。前者は慾望を直ちに満足せしむる目的を有つてゐる。後者は將來用ゐらるべき物を完成する目

的を有つてゐる。

總て、生産は消費を必要とする。一足の短靴を製作するには、革糸、釘、器具及び労働期間生活するに要する食糧を必要とする。産業のためにする消費は生産費に一致する。

職工技師が享樂のためにする消費も、裁判官、教師のそれと等しく亦産業のためにする消費である。何となれば、以上享樂のためにする消費も、労働或は勤勞の生産費であるからである。生産貨財が消費貨財に超過するときは、其の國は富裕となる。これと反對の場合には、その國は貧弱となる。されば富の増加は、貨財の良好なる使用に懸るのである。

一國の不生産的消費少く、産業のためにする消費が生産的なること大なれば、それだけ速に富裕となる譯である。

### 第三節 消費の増加を奨励せざるべからざるや

生産的消費の増加のみが有用である。併し慾望は産業の母であると言はれて居る。野蠻人を見よ。彼等は慾望を有たない所から懶惰に暮してゐるのである。

人類をして動植物的生活を免れしめんがためには、先づ生活の快樂を理解せしめるを以て可とすべきであらう。併し、やがて人類が修得せねばならぬことは、多くの貨財を生産し、これを利

用せんがため資本を蓄積することである。

近代人は、文化の程度を享樂の精鍊によつて量る所から慾望を増加せしめた。これに反て古人は慾望の調節を説いた。古の哲人の如く足るを知ると言ひ得る者は實に獨立不羈の人である。多くの慾望を有する者は奴隸である。その慾望を満足せんとする者は、他の奴隸を要とする。(物慾の奴隸を意味す)。

ステュアルト・ミル曰く、「自己が他人に對し有用なるは、自己が消費するがためではない。自己自らは消費しないからである。實に吾人はかくの如くにして、資本、貸銀基金、信用、食物及び産業の根底を創設したのである。

## 第二章 私的消費

### 第一節 奢侈

第十八世紀に於て奢侈の問題につきて多くの議論を見た。ある財政學者は奢侈を以て國家を支持するものであると謂つた。—ある經濟學者はこれに對へて被統者を支持する繩であると言

つた。

經濟學者の言ふ所が正當である。

贅澤品は餘計なものであると同時に高價なるもの、換言すれば、後天的の慾望を満足さすもので、多くの勞働時間を要するものである。空虚なる享樂に對し、長き勞働の果實を犠牲にせざるべからざるものは害惡たるに外ならない。

併し、昨日まで奢侈とせられたる物も、産業が發達し廉價に生産せらるるに至れば、明日は奢侈品と言へないこととなるであらう。中世に於ては、肌着用のシャツ、家屋内の煙突は大なる奢侈物であるとせられたが、今日では最も貧困なる者に對してさへ必要物とせらるるに至つた。

古の聖賢と基督教の道德とは、同一の強烈さを以て奢侈を非難した。古人の善の本性に關する所見は經濟學の指示する所と一致した。奢侈は、これを享樂する者に對しては憂患で、惡德の原因であり、他の者に對しては禍の源である。

奢侈は人類の三つの自然の性僻に根ざして居る。その中の二つは惡德で、第三のものは殆んど道德に近い。この性僻の第一は肉慾で、これを追求するには洗練された享樂でなければならぬ。第二は虚榮である。併し、肉慾には限界があるけれども、虚榮には限界がない。ランブリードの言ふ所によれば、羅馬帝ヘリヲガバルは、その朝臣を饗應するに蟹の腸、雉子鶉の腦

漿、鷓鴣の卵、鸚鵡の頭を以てした。クロードスエソピユスは、言葉を話すやうに馴らされて居た鳥の舌を料理に用ゐた。

かくも馬鹿氣たまでに高價なる料理を命ずる者は何物であらうか？。肉慾であらうか？、否それは虚榮心である。

極端なる奢侈は自然に對し反抗せしめる。

カリギユラマツキセネカの語りたるが如く、帝は不可能と思はるるものにあらざれば、何物をも欲しなかつた。邪曲は淫亂の香料である。

野蠻人と雖も虚榮心に満ちて居る。即ち衣服を着けるに先つて文身入れ身をした。高等なる人類は虚榮を示さんと努めた。併し、それは簡單なる服装と智識の輝きとによつたのであつた。奢侈は一方に虚榮心を養ひ、虚榮心は他方に於て嫉妬を生ずるから、道德上害毒の二重の原因をなすものである。これが解毒劑は、智識と感情とを高く教養することにある。

奢侈より生ずる第三の感情は、美術に對する趣味と裝飾の本能とであつて、そこから藝術が生れる。幸にして、この本能はこれを満足させることが出来る。これは物質の享價なるがためではなく形式の完成によるのである。

自然の花は、百萬法の價を有する寶石を以て作られたる花よりも愛すべきではなからうか？。タナグラ（希臘にあり古代の地下墓地）より出づる瀬戸物の小像は金剛石を鏤めたる純金製

の偶像よりも、數千倍の雅趣に富める物ではなからうか？。

美と裝飾との趣味を満足せしむべきは、特に公共の奢侈によるべきである。

多くの人々は、必要物に事を缺いて居るのに、無用の物を製作するがため、至る所に於て多くの時間が濫費せられつつあるのは、實に悲むべきことではなからうか？。今日失はれつつある總ての勢力が、重要な慾望の満足に用ゐらるるとしたならば、福利を増進すること如何に大なるか分らない。

モンテスキューは、これに對へて曰く、多くの人々が唯一人のために衣服の製作に従事しつつあることが、多數の人々が衣服を所有し得ない原因であると。

ルソー曰く、吾々の食卓に酒類が必要であるとするならば、何故に農夫は水より外には飲むことが出来ないであらうか？。多數の人々はパンすら有たないのに、何が故に髮鬘に香粉等を撒かなければならないのであらうか？。(贅澤な生活をする事)。

世人は奢侈自體を辯護しないけれども、奢侈は商工業を支持し商工業は労働者に仕事を與ふるものであるとの理由の下に奢侈を辯護して居る。これより甚しい誤謬はない。大學者及び有名なる經濟學者にして、この謬説を採つたものがある。これは一般的の偏見である。ラ・フォンテーヌのブルジョアの富に聽け。

われ知る人に必要なは、

奢侈によりて多くを散することなり、

われは散せん神ぞ知る。

わが逸樂は工人商賈を助くべし。

モンテスキュー曰く、「流行は重要である。人心を甚しく浮薄ならしめたる恩惠により商業の部門は絶えず増加せられたと。どうして浮薄が繁榮を助長することが出来やうか？。ジャン・バプチズム・セーが、「流行が繼續的に急速なるときは、消費せらるる物あると同時に消費せられずして無用に歸する物あるを以て國家を貧困ならしむ」と言ひしは正當である。

ポルテューは、浮華と題する書中に、モンテスキューと同一の思想を説明した。

殊に見よ、奢侈は大國を富ましめん。

こは小國を失ふことあらんも、

貧しき者は富める者の虚榮によりて生く。

(1) シスモンデー氏は述べて更に詳細であつた。若し忽ちにして富裕階級が貧民階級と等しくその労働によりて生活しその所得を資本に加ふるの決心を取るに至らば、労働者は失望して餓死せざるを得ざるに至るであらう(經濟學新論第二卷第二章)と言つた。以上は卑見偏説の甚だしきものである。分析の足らざるより生ずる偏見である。シスモンデーの唱ふる場合を採つて見ると、富者はその所得を資本に加へると言ふのであるが、どうして其をなすのであらうか？。

富者はその所得を機械、農工業の改良に變形するにあらざれば、所得を資本に付加することは出來ない。これには多數労働者の使用を必要とする。流行品に一千法を費すとすれば土地開拓に使用する労働者ほどの多數の労働者を養ふことは出來ない。何となれば田舎に於ける手間は都會地に於ける手間よりも廉價なるからである。

註 (1) Charles Simonde de Sismondi は一七七三年に生れ一八四二年 Geneve に於て死す。歴史家にして經濟者である。著す所經濟學原論(一八一九年)及び經濟學研究(一七八七年)は、産業の著しく進歩したるときに當り英國労働者の破りたる困苦の情に驚き、主として富の分配に干して論じたるものであるから、これを研究すると頗る有益なるものがある。

資本の創造とは、常に労働し、これと同時に賃銀を増加することである。何となれば、新たな資本を運用するときは新なる労働を必要とし、新なる労働の需要が大なれば高き賃銀が支拂はるゝからである。

奢侈は労働を支持するものなりと主張する者は、富の破壊は幸福を増加するものなりと言ふのである。

ジャン・バプチズム・セーが大學在學中毎日曜日に贅澤な生活を營める慈善家の伯父の家庭を訪問して居つたが、そのときのことについて話して居る。伯父は愉快に美酒を一壘傾けてから食後その壘を破碎しながら 次の如く言ふて居つた。「世間の人々が總て豊に生活せんことを望む」と。この説は囚はれたる謬見である。若し、その伯父が總ての皿鉢を破碎し住宅をも破壊

したならば、更に多くの人々を養ひ得る譯である。この考察を以てすれば羅馬府を燒燬したるネロ帝(暴君ネロは一日ローマ府を燒き高樓より望見して打興じたりといふ)は、人類の恩人で火災は富の源泉であると言はねばならぬ。

茲に眞理を述べて見やう。セイの伯父が破碎した皿の代りを買ふに要する金錢を以て、二三年の樹木を植ゑたならば、彼はその労働時間に相當する丈の報酬を受くるであらう。然らば彼の皿を總て保存しながら尙其上に植ゑられたる樹木は生長し、これを伐殺して製材するとせば、家具に變じて其の所得を増加すべく、他方に於ては家具製造のため職工に與ふる仕事を増加するであらう。

歴史家と倫理學者は、奢侈を以て國家の頹廢を伴ふものなりと唱ふるに一致した。これは眞理である。併し、それは道徳上の秩序を亂すと言ふよりも、社會の秩序を紊亂すること大なるが故である。極端なる奢侈は過度の不平等を生じ、その結果は内亂專制及び國家の滅亡を來すのである。

ポルテューの言ふ所は眞を穿つて居る。奢侈は財産所有權の結果ではなくして惡法の結果である。されば、奢侈を生ずるものは惡法であつて、奢侈を打破するものは善法である。我が民法典により平等遺産の法が原則として確立せらるるならば、年月を経るに従ひ奢侈を打破し得るであらう。モンテスキューの言ひし如く、富が平等に分配せらるゝならば奢侈はなくなる

であらう。何となれば、奢侈は他人の勞働によりて與へらるゝ餘財の上に立脚するにあらざれば、これを得ること能はざるが故である。

ルソー曰く、奢侈なかりせば貧困もなくなるであらうと。スイスのアルプス地方のカントンとノルウエーの谷間に足を踏み入るれば、モンテスキュー及びルソーの言ふ所が誤つて居ないことを會得するであらう。

## 第二節 保 險

保險は極めて巧妙なる組合せによりて、節約心と先見とを結合せしむるものである。

多數の人々が偶然の損害から免れんがため、その損害額に比例して年々積金を拂ひ込むときは、不運のため被つた損害の賠償をなし得る資金を作ることが出来る。

この資金は、年々被るべき損失の平均額に經營費を加へたるものに相當せねばならぬ。

火災に對しては家屋を、雹霰に對しては收穫を、海上の危險に對しては船舶及び積荷を、災厄に對しては旅客を、死亡に對しては人を保險に付することが出来る。

實價一千法の家屋に對しては五十サンチームの保險料を支拂ふによりて、若しその家屋が焼失するならば、その保險金額を受領する權利を獲得することが出来る。

毎年一定額の保險料を支拂ふことにより相続人に一定の資本を得しむることが出来る。年賦償還金は約束せらるゝ資本と被保險者の死亡の機會とによりて異なる。被保險者が若ければ若い程年賦償還金は少くて済む。その譯は、被保險者の保險料支拂期間の蓋然性大なるがためである。

保險は蓋然性と平均の計算の上に基礎を置くものである。保險の利益は多大である。

保險は運命の悪しき機會から個人を免れしめる。保險は安全の感情を鼓吹する。保險はそれから生ずる節約心と先見とを發達せしめる。保險は貸金に對する擔保をなすものであるから、人的又は物的信用に對し鞏固なる基礎を與へる。保險は協力の慣習を普及せしめる。保險は資本の再興をはかる。

相互救助組合、恩給及び退職基金は同一の主義の上に立てられる。毎日又は毎週職工の賃銀或は官吏の俸給より一定額を控除し基金を作り、災厄に當り損害金を支拂ひ、又は老年者に對し年金を支拂ふのである。



## 第三章 公的消費

### 第一節 公的消費の效用

公的消費とは公共團體の行ふ所であつて國家、洲、市町村によりて行はるゝものである。貨幣は消費せらるゝも消滅するものでない所から、貨幣は毫も破壊せられずして生産を助くるものであると想像せらるる。これは奢侈的消費と同一の誤謬に出づるものである。貨幣は絶へず循環する。併し、貨幣によりて支拂はれたる貨財は消費せらるる。

ボルテューユ曰く、イギリス王は一年に一百万磅を消費する。この一百万磅は消費により全く人民に復歸するものである。貨幣が破壊せられざるものなることは疑を容れない。併し、王によつて購入せられたる物品は消失せられ、人民はそれ丈け奪はれるのである。

兵營内に於て兵士を維持せないで、人民によりて養はしめるとするなれば、人民は自己に對する貨物の減少したことが分るであらう。兵士を支持するために納めらるる租税は、第二に述べたる場合（人民が兵士を養ふ場合）に於て兵士の消費する貨物を表すのである。

されば、總ての公的消費は效用の破壊である。吟味せざるべからざる所は、國家の行動によりて生産せられたる效用が、破壊せられたる效用より大なるかどうかと言ふことである。

### 第二節 國家の職分

惡政府は、人民に對し戰爭により、組織的の掠奪により、苛税により、多大の害惡を與へた。これがため經濟學者は國家の權限を出來得る限り制限せんとした。

經濟學者は、國家を以て人民の髓を貪食する腫物に喩へた。彼等は喜んでラ・フォンテーヌの如く言つた。「我が敵は我君主である」と。或は、ブルウドンと共に無政府主義、即ち政府の廢止を謳歌したのである。

併し、文化の進歩は國家の行動によるにあらざればこれを期し難い。

法を制定し、これを施行するは國家の職分である。而して勞働の結果を創設したる者に對し、これを保障し生産を決定するものは法律である。

ペーコン曰く、社會を支配するものは法或は力なりと。

法の支配する所には、秩序、勞働、節約、資本の組織、科學、福利がある。力の支配する所には、鬭爭、掠奪、怠惰、悲慘がある。

國家は、道路を作り、安寧を保ち、よつて交易、分業、大産業、商業、致富、人類の連帶を助長すべきである。國家は教育により既に前に述べし如く、福利と眞の文化との大源泉たる科學と必要缺くべからざる智識との普及に努める。

裁判の組織良好なることは人民に對する第一の利益である。裁判組織の良好なるがためには裁判が、公正に、迅速に、少き費用を以て行はれなければならぬ。かくの如きは、單り國家のみが爲し得る所である。

數年前ニューグラナダの一大統領は、經濟學の純理に感染し、爾來國家はその眞の役目をのみなし、他の總てはこれ個人の創意に放任すべきものなることを宣言した。其後幾何も經ずして道路は破壊せられ、港灣は砂泥を以て埋められ、安寧と教育とは跡を留めざるに至つた。國家は野蠻の原始森林時代に復歸したのであつた。

トルコに於ては國庫が空虚なるため、國家は何事をも爲し得ない。併し、トルコに於て直ちに福利の制度を實施せんとせば無分別も甚しいのである。

總て公的消費はそれだけ私的消費を減少する。併し、前者は後者よりも往々にして其の效用が多い。若し松露及び葡萄酒に對して徵收せられたる租税が、圖書館又は學校の費用に充當せらるるならば、何人もこれに對して不平を唱ふることなかるべく、租税を納付する者に於てすらこれを怨まないであらう。

(1) ロシイ曰く、公的費消は、一般的結合を單り二三の者に對してのみでなく總ての者に對し利用せしむる方法であると。

註 (1) Pellegrino Rossi は刑法學者兼經濟學者にして一七八七年伊太利の Carrara に生れ、一八四八年羅馬に於て殺害せられた。氏の著經濟學講義は眞書である。

### 第三節 公共團體の行動の制限

この問題につきては現在二つの理論が行はれて居る。國家警察說と國家萬能說とである。

第一說に於ては國家の行動は安寧の保障に局限せられ、第二說に於ては國家は各人に對し必要と効用とを確保するものにして、例へば烏鍋其他の物を給與すると言ふのである。

第一の理論は個人主義 即ち、個人を完成することにより、國家は完成せらるる結果を生ずるから國家は存在しないとすのである。

第二の理論は社會主義で、その型式はプラトンの共和國中に存在する。國家完成せらるればその結果國家の成員たる個人も、完成せらるると言ふのである。

アダム・スミスは兩極端說の中間を採つた。彼は完全に國家の職分を定義したものと云ひ得る。

スミスの曰ふ所に従へば、即ち、  
第一は、他の獨立國家の攻撃に對して社會を保護することに存する。この點につきては總ての人は一致する。

第二は、社會の各成員に對し、他の總ての成員よりの敵意と不公正の結果を受けしめざるやうにこれを保護するにある。

各人のためにその身體と財産との安全を保障し、力を與へて法を維持するが如きは實に國家の重要な使命である。併し、スミスも亦其説の繼承者も其の使命の範圍如何と使命に伴ふ困難とについては疑を懐かなかつたやうである。

各人をして自己に歸する所を所有せしむることは、公正を行はしむることである。「各人の物は各人に歸せしむ」とは民法―法律原論又は法典―實に總ての經濟的活動を支配するものなすべき事業である。

第三の職分は、公共に必要なある種の建物を新設し、或は維持することに存する。これ等を創設し或は維持するに要する費用は、一個人又は少數人の利益より見よれば損失相償はない。けれども、これを利用することを得べき人々の利益は、建物のために要したる費用に優る理由によつてなされるのである。(富國論第四卷第九章)。

例へば、燈臺、港灣、道路、運河、大學、病院、時には諸學校等これである。

個人の創意が原則で國家の干渉は例外である。干渉を妥當とするには二つの條件を必要とする。第一には重要な公衆の利益に關するとき、第二には個人にては、その利益の要求する効用を創設する能はざることである。ツルゴ―は、この問題に關し公衆の教育を以て國家の第一の義務であると考へた。國家の干渉はそれが妥當なる場合に於ても常に弊害のあるものである。

一、國家のなす所は敏速ならず又廉價でもない。

二、親戚に對する愛、偏頗、朋黨の要求等は往々無用なる物を作らしめ或は有用なる物を粗製せしむる結果を生ずる。

三、國家の行動は、個人をして國家に倚賴せしめ、不活潑ならしむる習慣を生せしむる。

史家ビュンセンが羅馬府に遊びしとき家屋の火災に罹つて居るのを見た。群集は叶んだ。併し誰一人働かなかつたので其故を尋ねた。ところが一人の男がそれは政府のなすべき仕事であるからだと答へた。

北アメリカ合衆國では、火災が勃發した場合には個人によりて組織せられた目ざましきポンプ隊が各方面から駆けつける。この國に於ては個人の計畫は、教養的にして敏活である。

ジュールシモン曰く、國家は無用の事業を起し且つ其の通路を用意すと。政府が辭すること早きに失せざる場合に於てはシモンの言ふ所は眞理である。

アンシアン・レヂームの時代イスパニアに私設組合よりなる警察が組織せられた。それは神聖

なる社友と言ふ美しき名を有したるも、そのなす所は極めて拙劣なるものがあつた。

若し人類がその利益、権利及び義務の何たるかを會得するならば、總てその爲すべき所を爲し、爲すべからざる所を爲さざるは自然の數である。總ての強制は無用となるであらう。國家の必要は無くなるであらう。眞の自由の絶對的支配の下に於てこそ善政が行はれるのである。社會が進歩するに従ひ國家の職分は減少せらるべきものである。併し、この進歩は主として國家の政治に懸るのである。

國家の有する重要にして永久的なる職分は法律を發布し、これを維持することにある。ケネーの巧に言ひ表せしが如く、國家は正義のために用ゐらるる力である。國家の一時的職分は極めて重要なものであつて文化の進歩を助長する。

とりわけ國家は裁判官及び警察官としての仕事をせねばならぬ。併し、道路の建設者又學校の教師としての仕事をもしなければならぬ。

#### 第四節 公共の奢侈

社會が民衆的になればなる程國家が美術を奨励すべきは妥當である。美術は許さるべき唯一の奢侈なりと言はねばならぬ。ペリクレス時代のアテネ府は常に鑑識となすべきである。

ピンダール(アテネの詩人)は、第七回オリンピック祭に歌ふて曰く、ロリアンガミネルプ(智と美術との女神)に祭壇を献げつる日、黄金の雨降りぬと。人民が文學と美術とを愛するとき黄金の雨は其の頭上に降る。黄金の雨は純白無私の娛樂である。

(1) ボードリラルト氏が、奢侈史に於て公共の奢侈に關して述べた所を茲に引用せう。公共の奢侈は時には衆人に對し娛樂を享樂せしめる。例へば、公園、泉水、或は劇場の如きこれである。又時には彫刻家又は畫家の作物を有たない衆人に對し美術館を開設する。藝術に對しては博物館があり、科學及び文學に對しては圖書館があり、産業に對しては博覽會がある。如何なる形式の下に於ても集團的奢侈はその指導宜しきを得ば萬人に利益を與へる。それは産業の水準を高め、産業の特質を豊富にする。加之、此種の奢侈は顯著なる効蹟を有つて居る。即ち個人間の豪奢から自我と孤獨とを除却するのである。公共の奢侈は通常富者のみが享樂するか或は一時的少數人のみが享樂する貨財をば、衆人の手が達する所に置くのである。

註(1) Baudrillard は一八二一年に生る。奢侈史の外に經濟學に關する著作は頗る多いが、經濟と道德との關係、及び經濟學提要は Joseph Garnier の著作と共に古典的のものとなつてゐる。

アテネ人は美的感情の熱心なる教養によつて文化の水準を高めた。フェリツクス・ラベーン氏は學校に於ける技藝教育によりて同一の目的を達せんと欲した。氏曰く、智識を高上せしめんがためには、教育は實質と形態とによるべく、恰もこれを車の兩輪の如く用ゐざるべからず。

……現世の運命により、重き壓迫を受くる下層社會はレヲナルド・ピンチの所謂世界の善美に双眸を開き廣漠たる世界に隈なく行き渡れる光輝を享樂するならば、その辛き運命を輕減し得ないであらうか？。そしてバスカルの説明するが如く、感激する者はその悲哀を慰撫し幸なる運命の豫感と先試とを與へらるゝのである。

公共の奢侈は決して人民の必需品に課税してこれを維持すべきものでなく、又富者に對して虚榮心と肉慾を獎勵すべきものでもない。公共の奢侈は常に高尚なる感情、即ち、祖國と人類及び富と正義を愛する感情を強むるがために用ゐらるべきものである。

## 第四章 租 稅

### 第一節 租稅とは何ぞや

國務及び國務を執行する者に對し支拂をなすには歳入を必要とする。歳入は官有財産か或は租稅によりて供せられる。

昔時、國王は殆んど總ての歳入をその所有財産より出したること、尙今日個人が其の地代に

よりて生活すると同じであつた。今日に於ても、ロシアの如く帝王の土地より歳入を得るものがあり、又ベルギーの如く鐵道を國有として歳入を得るものがある。併し、政費に充當せらるるものは主として租稅である。

官有財産より歳入を得る利益は個人の收入を減せざる點にある。租稅はこれを負擔する者、換言すれば、納稅者の收入に課せらるる徵收である。公民はこの納稅の代價を以て、社會の秩序と言ふ利益を購ふのである。モンテスキューは完全に言つた。國家の歳入は、各公民がその安寧を得、又は安寧を愉快に享樂せんがため各人の富の中より與ふる一部分である。(法の精神第八卷第一章)。

若し、國家が租稅を收めこれが代價として安寧をも亦愉快をも與へないとするならば、ジャン・バプチスム・セイの口吻を以てすればそれは一の掠奪である。專制の掠奪が人民を壓制するために用ゐられるとすれば、我亦何をか言はんやである。

租稅が輕減せられ堅實にして其の使途當を得たるものなるに於ては、國民全般に對しても、又其の中の下層階級者に對しても、これに優りて利益ある出費はないのである。

### 第二節 租稅の制定に關する規則

租税制定に關する規則は、極めて重要なものの一つである。何となれば、人民の頽廢と革命との主たる原因をなすものは通常苛税又は不堅實なる租税なるが故である。

國家により行はるる出費が必要缺くべからざるものなるか、或は、極めて有用なる場合に於てさへも、これが手段に充てらるる租税には常に不便がある。出來得る限り、この不便を減少せんがため、ある規則が指示せられた。それを此に述べて見よう。

一、租税はこれを納税者の資力に應せしめねばならぬ。従つて、租税は公平を期せねばならぬ。アンシアン・レヂームの時代に於てはこれと反對であつた。富者、即ち、貴族は毫も納税しない。貧者、即ち、労働者が總てを納税したのであつた。

ポーバン元師の次の言に聞け。人頭税を課せらるる小教區に於て課税の割合を定むるに當りては、美食者或は粗食者によるにあらず、又財産の多少によるのでもない。唯、嫉妬、保護、愛顧、増悪によるのである。眞の貧困者、虚飾者は殆んど常に等しく屈服せられたと。以上は無智と偏頗が暴威を逞ふし其の結果農業を萎靡せしめた恐怖制度であつた。

二、租税は極めて詳細に、税率、納税の方法、時期を豫め完全に定めて置かねばならぬ。若し、然らざれば、納税者は收税官吏の思ひのままに左右せられること、恰も東洋に於て往々見るが如く納税者は屈從的となり、收税官吏は專制的となるのである。

三、租税は生産の能因に課せないで、獲得せらるる生産品に課すべきである。故に、家畜、

樹木、蒸氣汽罐等に課税してはならない。パレスチンの諸村落に於ては個々の椰子樹に課税したため、富源たる椰子樹は伐殺せられた。若し、租税が土地に課せられたならば、人々は個々の樹木につき負擔を軽減せんがため、出來得る丈け多くの樹木を植ゑるを以て利益としたであらう。

租税は、高きに過ぐるよりも不堅實なるがために往々にして害悪を生ずる。

四、租税は納税者が最も納付し易き時期を斟酌して課すべきである。されば、地租の如きは賦拂により納付するを許すべきである。相續税の容易に納付し得らるる所以は既に恒産を有したる者に對し相續により豫期せざる資源の増加を生せしめるからである。

五、租税は出來得る丈け公民の支拂ひたるものを全部國家に收めしめなければならぬ。徴收費は國民により支拂はれたるもので、しかも國庫にとりては損失となるものである。都市に入るために徴收せらるる入市税の中、往々二割或は三割に相當する額が收税吏を養ふために用ゐられる。彼等收税吏は、生産的労働より離れ他人の生産する貨財の循環を妨ぐるものである。

六、租税は中庸を得ることを必要とし、労働を失望せしむる程度に高くしてはならぬ。

ジアン・バプチスム・セイの論ずる所によれば、アンシアン・レヂーム時代に於ける租税強要者は、農夫は必ず貧困ならざるべからざるものとし、このことが彼等を怠惰であり得ざらしむる唯一の方法であると常に言つた。農業は閑却せられ、不幸悲惨は屢々饑饉を生せしめた。これは

アンシアン・レヂームの結果であつた。

租税にして生産の極めて大部分を奪取するならば労働者を失望せしめ經濟上の頽廢が始まるであらう。ルイ十四世の治下に於ては人々は御用金の課税を免れんがため葡萄樹を抜き去つた。ポーバンの言ふ所によると、御用金は往々生産品の價格に相當することがあつた。苛税は世界に於ける有力なる二帝國、即ち、ローマ帝國とカール五世の帝國とを滅亡せしめた。

一八八二年フランスに於て、國家、州、市町村が課した租税は、四十億法を超過して居つた、然るに一八七四年に於ける純地租の歳入は三十九億五千萬法を算するに過ぎなかつた。これを踏破するには危殆なる限度に達して居たやうである。

七、租税は不道徳なる税源、例へば、富籤、賭場の如きものより汲み取つてはならぬ。納税者の租税賦課を決定するに當り宣誓を強要してはならぬ。それは偽證者に利益を與ふることとなるからである。

八、租税は國庫を欺き課税を免るることを得るが如きものに對して課してはならぬ。さうでないと詐欺を奨励することとなるのである。關税のため密輸入を生ずるが如き場合には以上の結果を將來するのである。

法を犯すことを慣行せしむる法ぐらい害惡をなすものはない。

### 第三節 租税の轉嫁

租税轉嫁の決定とは、その負擔が何人に歸するかと云ふことである。

租税の多くは反射する作用を有し、その負擔は分割せられる。労働者の食糧に課税するとき、労働者はその生活を維持せんがため賃銀の増加をはからなければならぬ。賃銀の増加は貨物を騰貴せしめ、結局租税は消費者に歸することとなる。

店主に對する營業税を増加すれば商品の原價を騰貴せしめ、顧客がこれを支拂ふこととなるであらう。

轉嫁より轉嫁に渡り總ての負擔は土地に歸着するものであるとは重農學派の唱ふる所である。他の一派はこれを否定し、最終に租税を支拂ふ者は常に消費者であると主張する。久しき以前より存在せる租税につきては、總ての者が直接又は間接にその租税の一部を負担せることは真である。併し、孰れが多きかに至つてはこれを明言し得ない。けれども、社會は恰も足と靴との如く互に合致するものである。

結論。若し出來得べくんば多くの租税はこれを廢すべきである。先づ惡税より廢止を始めなければならぬ。併し、租税を修正することはこれを避けねばならない。

## 第四節 單一稅

會計法學者の發明したる無數の租稅表を一覽するときは、何が故にかくまで錯雜せるかを疑ふであらう。何が故に、各人に對し其の財産に比例して直接に納付部分を要求しないのであらうか？。此に於てか重農學派の如く土地に對し單一稅を課せんとするものがあり、又他の者の如く、所得に、或は、資本に、單一稅を課せんとするものがあるのである。

かくの如く誘惑的なる單一稅の計畫を採用するを妨ぐるものは、租稅をして各人の資源に比例せしむる確たる根據を發見することが困難なる點にある。土地のみが富の唯一の源泉ではないから、土地が總ての租稅を支拂ふべきものではない。又固定資本が總ての租稅を支拂ふべきものでもない。何となれば、流通資本又は職業より所得を引き出す者、例へば、商人、銀行業者、辯護士、醫師、技師、店主の如きは毫も納稅しないこととなるか或は殆んど納稅せざることとなるからである。各人よりその所得に應じて租稅を納付すべきことを要求するは全く公正なることと言ふべきであらう。併し、各人の所得とは如何なるものであらうか？。

少數の人に大なる不公正を及ぼさんよりは、寧ろ極小部分の不公正を各人間に分配し、これを忍ばしむる方が寧ろ優れるやうに思はれる。

## 第五節 直接稅及び間接稅

直接稅は追求せんとする所に直接課稅するもので、例へば、土地所有者が地租を納付するが如きこれである。間接稅は實際消費者によりて負擔せられる。併し、製造家が介在して前拂をするのである。砂糖製造業者は砂糖なる商品に對する租稅を納付する。併し、砂糖の價格はこれに應じて騰貴するから、間接に租稅を負擔する者は砂糖の消費者である。

間接稅は人民により、知らず知らずの間に納付せらるるものである所から、尨大なる軍備を維持せんとする政治家は好んで間接稅を採用する。これを譬ふれば、吾々が鳩を鳴かしぬないで、少しづつ其の羽毛を抜きとることが出来るのと同じである。併し、その弊害は多大である。關稅に於けるが如く通商を阻害し、砂糖消費稅につきて見るが如く産業の進歩を妨げ、鹽、麥酒、葡萄酒消費稅の如く勞働者の福利を削減する。

然るに、間接稅は多大の歳入を齎す所から不幸にもこれが廢止は極めて困難である。

一般的の規則を述べれば、第一に必要な消費物、例へば、鹽、パンの如きに對しては課稅を節し、費澤にして有害なる消費物、例へば、煙草、酒類の如きに對しては重く課稅すべきである。



## 第六節 豫算

預算は、英語であつて佛の古語 *loger* (小さな衣裳) より轉訛したるもので、一年間の國家の歳入と歳出との計算を意味する。

豫算は立憲自由國に於ては大藏大臣により提出せられ、議會によりて議決せられる。

その年度の豫算議決は立法權、即ち、議會が行政權即ち選舉せられたる、或は世襲の君主に對し自己の意見を強制するに用ゆる武器である。財布の紐を握る主人公は議會である。若し、議會が租税を議決しないならば、君主は無勢力に陥り、武斷政治によるにあらざれば、租税を徵收することを得ないのである。

豫算は明瞭正確にして缺損なきものでなければならぬ。

近代國家にありては、以上の性質を缺くが如き豫算を見ること稀である。ボゼートと即ちホッキ衣蓋は麗大なるものとなつた。豫算は年々擴大せられ、普通浪費的のものとなつた。

## 第七節 公債

豫見すべからざる出來事、例へば、戦争、饑饉、或は經常費又は臨時費を法外に支出したるがため、豫算に不足を生じたる場合には、國家は公債に救を求め。ここに於て、年度豫算は公債の利子と減債基金のため重き負擔に苦むのである。

殆んど總ての國家は簡單に國債を起すのであるがこれは實に痛嘆すべきことである。起債したる國務大臣は大事業をなしたるが如く考へる。これに應募する民衆は容易なる投資場所を見する。納税者は盲目にして無關心である、若し考慮するとしても目前の事實に囚はれる。支出による利益は現在限りのものであるが、負債の過重は將來に残されるのである。

一國に於て先見がないこと大なれば大なるほど、公債制度の危険は大である。公債はイスパニア、メキシコ、ペルー、トルコに於て、國家と或はその債權者とを滅亡させた。又往々にして兩者をも滅亡させたのである。

國を救ひ又は將來を利する事業をなすためにする場合でなければ、後世子孫に對し負擔となるべき公債を起すことは妥當でない。

北アメリカ共和國の建設者は總て永久の負債を非難した。彼等は各時代の人々が各自の約束したる負債を支拂ふべきものであると考へた。北アメリカ合衆國の公民が、絶へず南北戦争税を支拂ひ、その公債を全部償還せんと努むるは祖先の訓戒あるがためである。

世人は公債の憂ふべき結果を殆んど了解せずして、ポルテューによりて唱へられたる「戦り

自國民に負債をなすは貧困にあらず、この負債は新に産業を奨励するものなればなり（通商解説 奢侈と租税）との暗愚を反覆せんとしてゐる。

例外的の出費を支拂ふがためには、イギリスの大宰相グラッドストーンの言に主張せしが如く、公債よりは租税に倚るを可とする。

國家が獲得することを許される貨幣又は商品は孰れも、個人の消費より先取せられて、使用せらるるものである。納税者は、その納税に代へて何等の證券をも受領しないのであるから、租税によりて行はる奪取は公債よりも辛い。公債によりて行はれる奪取は、辛酷の程度は少いが永久的である。納税者は毎年國債の利子につきその負擔部分を支拂ふがため、各自の享樂を割愛せねばならない。加之、ツラシーの注意せしが如く、國債の利子を支拂ふがため多數の怠惰者を養はねばならぬ。若しさうでなかつたならば、これ等の怠惰者は自ら労働するか或は各自の資本を有利に活用せなければならぬこととなるのである。（法の精神の註釋第二十二卷）。多數文明國の公債は莫大である。而して、これ等の中の多くは契約したる利子すら、完全に支拂ひ得ない。左表は一八七九年に於ける主なる國家の負債が如何に大なるかを表せるものである。

ヨーロッパ

北アメリカ合衆國

單位百萬法

一〇一三五

ドイツ	五五〇〇
オーストリアハンガリー	一〇五三一
フランス	二〇六二五
イギリス	一九四五六
ロシア	一五〇〇〇
イタリー	一〇二二二
イスパニア	一三二二五
オランダ	二〇五〇
ベルギー	一一五五
デンマーク	二五五六
スウェーデン	三〇〇〇
ノールウェー	一三三一
ポルトガル	二〇六二
ギリシヤ	五〇〇
ベルコ	六二五〇
トルコ屬邦	五二五

經濟學原論

總計 ..... 三五  
約一千一百九十億法である。

一一八八四八

三〇〇

# 經濟學原論終

大正十二年十二月六日印刷  
大正十二年十二月十日發行

禁不許  
漢製  
發行所  
印刷者

原田光三郎  
川上  
東京市神田區三河町一丁目  
香川縣高松市一善町三十七番地

假綴製本 金貳圓五拾錢  
本綴製本 金參圓

發兌元  
賣捌所  
賣捌所

有斐閣  
有斐閣分  
有終閣書

東京市神田區一ツ橋區町五番地  
電話 三三三三  
東京市神田區三三三番地  
電話 三三三三  
東京市神田區三三三番地  
電話 三三三三  
東京市本郷區西川町一番地

有斐閣

（ラブレター用紙製成、時）

512  
191

終